

# nice Coin

素敵なコイン

アンティークコイン専門誌

世界の歴史はコインが残した

2025  
年末  
特大号



特集 *Haus Habsburg*

ハプスブルグ家～繁栄と衰退～



# *Haus Habsburg*

## 特集

ハプスブルグ家～繁栄と衰退～.....02

カトリックの世界戦略 .....04

ハプスブルグの家系図 .....06

ハプスブルグの遺産 .....08

## COLUMN

高市首相誕生！迫る緊急事態条項と財産課税！ .....10

## COIN

バイエルン選帝侯マキシミアン1世 .....12



# INDEX

## 素敵なコイン 2025 年末 特大号

表紙イメージ（一部 AI）  
中央に据えた双頭の鷲は、世俗（皇帝）と宗教（教皇）の二重権威を象徴するハプスブルク家の家紋。右側にはアヴィニョン捕囚を終結させ、教皇権をローマへ回復したグレゴリウス 11 世、左側には甲冑と王冠を戴き、教皇の権威を巧みに利用して“太陽の沈まぬ帝国”を築き上げた神聖ローマ皇帝カール 5 世を配した。背景にはケルン大聖堂の内観を選び、教皇と皇帝が交差し融合した中世～近世ヨーロッパの精神構造を象徴させている。ローマ・カトリックの権威を取り込むことで栄華を極めたハプスブルク家が、やがて同じ宗教構造の矛盾によって衰退していく歴史のドラマ性も込めた表紙意匠である。

### 目次背景（実物写真）

ケルン大聖堂。  
神聖ローマ帝国の選帝侯であるケルン大司教の座として、皇帝権と教皇権が交差した宗教中核。東方三博士の聖遺物を擁し、帝国の精神的統合を象徴する巡礼聖堂となった。また、長く未完の象徴であったが、19 世紀にドイツ統一の機運とともに完成。現在は世界遺産に登録され、ハプスブルク家が理想とした“普遍的キリスト教世界”の精神性を今に伝えている。

TOPIC	地金の短・中・長期予想	20
COIN	2025 年の希少コインの動向	24
SPECIAL	グレート・コンジャンクション	28
COIN	ナポレオン・ボナパルト	34
Buyer's eye	地金系コインと金の交換	40
ECONOMY	本気で危険！来年以降 10%以上に爆上がりする!?	42
information	KIZUNA 会員ご案内	44

# 特集 Haus Habsburg

## ハプスブルグ家～繁栄と衰退～

text & graphics by Hiro Ferrari

### フリードリヒ III 1415-1493

耐える皇帝、未来を掴む

フリードリヒ 3 世は、ハプスブルク家で初の神聖ローマ皇帝（1452 年～1493 年）となり、約 41 年に及ぶ最長在位で家門の地位を揺るぎないものにした。政治的手腕は必ずしも華々しくなく、慎重で妥協型の統治姿勢ゆえ「遅鈍」と評されることもあったが、短期の勝利より長期の安定を選ぶ戦略家であったことが近年再評価されている。彼は自家の権威向上を図り、ルドルフ 4 世の偽造文書『大特許状』を正式に追認し、ハプスブルク家を“大公家”として帝国内に認知させた。また、息子マクシミリアン 1 世の婚姻政策に道を開き、「戦わずして領土を得る」結婚外交時代の基礎を築いた皇帝である。彼の忍耐と制度化の功績が、後の大帝国誕生へと直結していく。



### ルネサンス

### 1339-1365

### ルドルフ IV

帝位なき“創設者”  
『大特許状』

ルドルフ 4 世は「創設者」と称され、ハプスブルク家の国家基盤を整えた人物である。ハプスブルク領の格を高めるため、神聖ローマ帝国に対抗しうる権威づけを進め、ウィーン大学を創設（1365 年）して学術と文化の中心地とした。ハプスブルク家の帝国内での正統性を高めるため、皇帝特権を拡大したかのように見せる偽造文書『大特許状』を編纂し、自家の地位を“公国から大公国”へ格上げしようと試みた。短命ではあったが、後世の大帝国形成を支えた象徴戦略の先駆者である。



### 1218-1291 ルドルフ I

ハプスブルク興隆の起点

ハプスブルク家最初のローマ王となったルドルフ 1 世（在位 1273～1291）。中世ドイツの混乱期に選帝侯の支持を得て即位し、領土拡大よりも秩序回復を重視。オーストリアを獲得し、後のハプスブルク帝国繁栄の基礎を築いた。



### 1459-1519

### マクシミリアン I

結婚で帝国を築いた皇帝

マクシミリアン 1 世はハプスブルク家をヨーロッパ大帝国へ押し上げた転換点の皇帝である。彼の最大の功績は、武力ではなく婚姻外交による領土拡大戦略を体系化した点にある。自らはブルゴーニュ公国の相続者マリーと結婚し、ネーデルラントと富裕なブルゴーニュ領を獲得。さらに息子フィリップ美公とスペイン王家の王女ファナを結婚させ、のちのスペイン＝ハプスブルク王朝誕生の布石を打った。「戦わずして勝つ」結婚政策はヨーロッパ政治の常識を変え、家訓として後世に受け継がれていく。また、ルネサンス精神を取り入れ文化振興にも尽力し、帝国の威信を高めた。彼の時代にハプスブルク家はいよいよ大國として台頭し、“太陽の沈まぬ帝国”の原型が形成されたのである。



1300

1400

1500

ハプスブルク家は 1273年のローマ王即位を皮切りに勃興し、カール 5世らが神聖ローマ皇帝として戴冠  
 政略結婚によって領土を拡大し世襲体制を固めた。  
 スペイン併合後は「太陽の沈まぬ帝国」と称され、植民地支配で莫大な富を得たが、  
 宗教改革によりプロテスタント勢力が台頭し、三〇年戦争の敗北で権威は失墜。  
 近親婚の弊害による血統の弱体化や、  
 巨額の財をカトリック教会と戦争へ投じ民衆に負担を強いたことで反乱や独立運動が起こり、  
 海上覇権争いでは大英帝国に後れを取り、次第に衰退へと向かった。

フェルディナント I

ルドルフ II

※メダルの大きさ = 王位期間に比例

マクシミリアン II

フェルディナント II

フェリペ II

フェルディナント III

フェリペ III

レオポルド I

1500-1558  
 カール V  
 カルロス I

カール 5 世は、ハプスブルク家の絶頂期を  
 象徴する皇帝であり、「太陽の沈まぬ帝国」を  
 現実にした唯一の君主である。父方から神聖ローマ  
 帝国とオーストリア領、母方からスペイン王国・ネー  
 デルラント・南イタリア、そして新大陸の植民地までも継承し、  
 ヨーロッパとアメリカ大陸にまたがる広大な領土を統治した。1520  
 年に神聖ローマ皇帝に即位すると、宗教改革で台頭したルター派と  
 の対立、フランス王フランソワ 1 世、オスマン帝国のスレイマン 1  
 世との抗争など、内外に多面的な危機に直面する。カール 5 世は普  
 遍的キリスト教帝国の維持を目指したが、宗教と国家の利害が絡み  
 合う時代潮流には抗しきれず、最終的には妥協と分裂を受け入れる  
 こととなった。1556 年に帝位を放棄し、帝国は弟フェルディナント  
 へ（オーストリア系）と、息子フェリペ 2 世へ（スペイン系）に分  
 割相続される。これにより、ハプスブルク家は二つの系統に分岐し、  
 統一帝国の夢は幕を閉じた。壮大な世界帝国の統治と瓦解、その運  
 命の狭間に生きた皇帝である。

1550

1600

三〇年戦争

1650

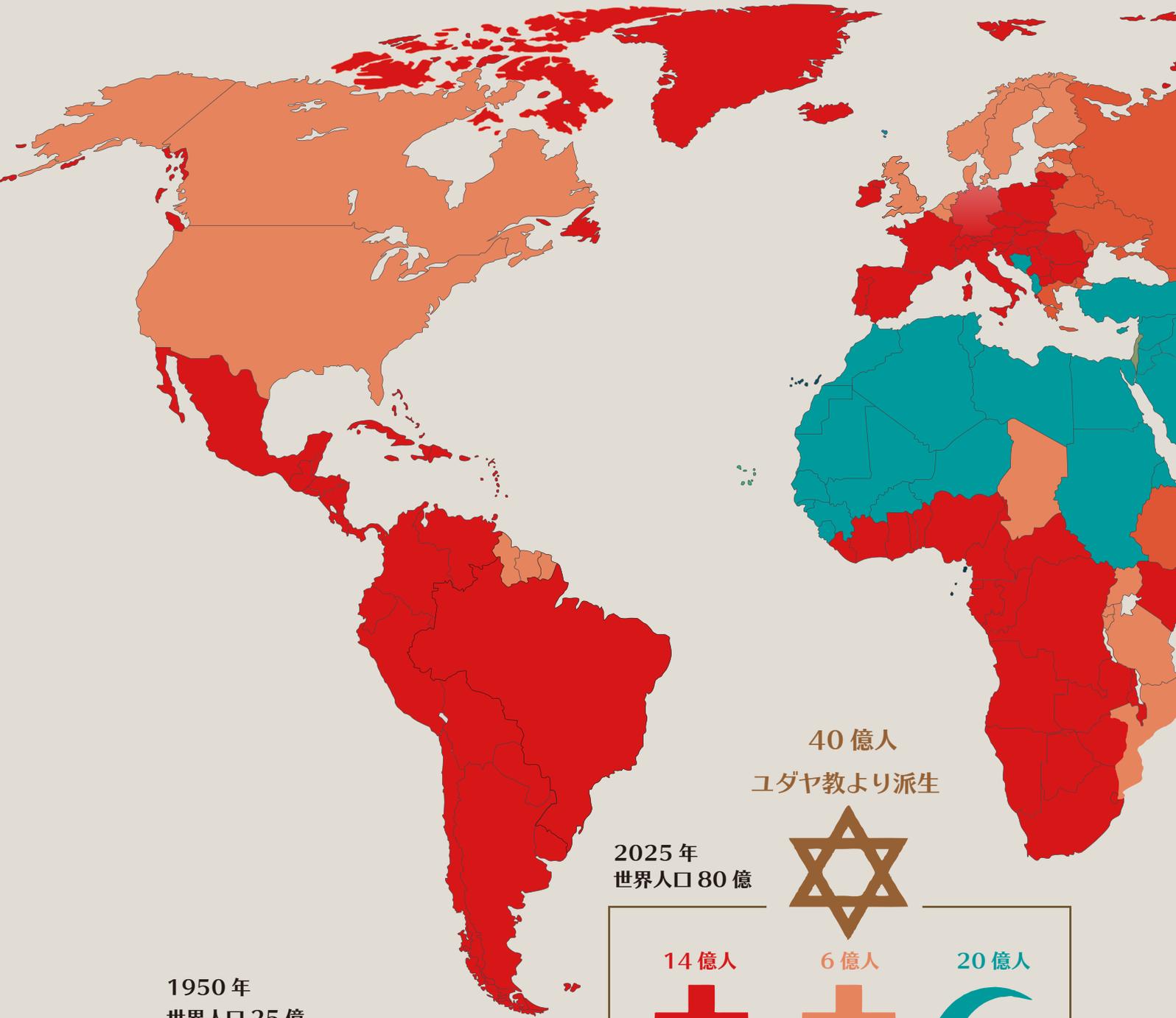
フェリペ IV

カルロス II

# Hous Habsburg

ハプスブルグ家～繁栄と衰退～

—カトリックの世界戦略—  
Roman Catholic Emperor



1950年  
世界人口 25 億

12 億人  
カトリック 7 億人  
プロテスタント 3 億人  
イスラム 2 億人



2025年  
世界人口 80 億

40 億人  
ユダヤ教より派生



カトリック



プロテスタント



20 億人

イスラム

バチカン統計



教区（教会数）：440 万  
 学校数（幼～高）：23 万  
 社会福祉施設：10 万  
 大学：1,300 校  
 世界遺産：199 件



モスク：360 万  
 学校系：～10 万  
 社会福祉系：～1 万  
 大学：350 校  
 世界遺産：74 件



10 億人  
 儒教  
 世界遺産 21 件

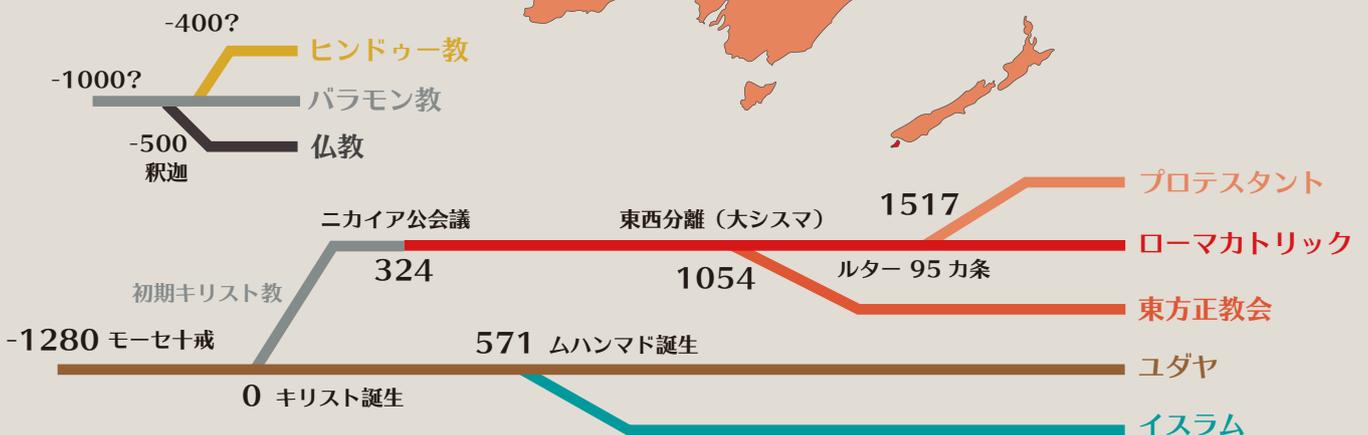


5 億人  
 仏教

寺：40 万  
 学校系：～2 万  
 大学：35 校  
 世界遺産：41 件



11 億人 ヒンドゥー  
 寺院：65 万  
 大学：35 校  
 世界遺産：25 件

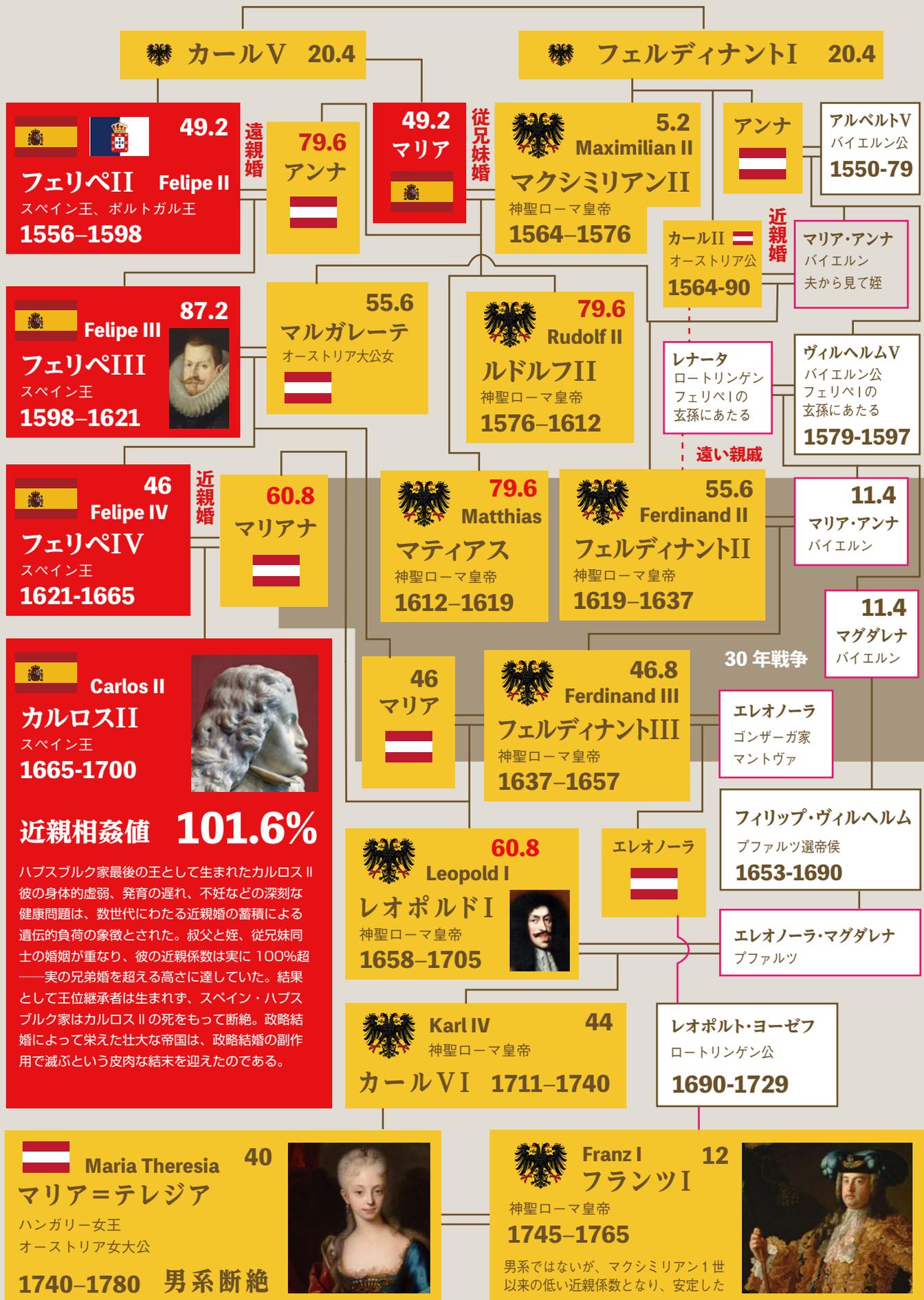


# House Habsburg

ハプスブルグ家～繁栄と衰退～

一政略結婚による帝国  
Empire by Marriage





# Hous Habsburg

ハプスブルグ家～繁栄と衰退～

ーハプスブルグ帝国の遺産ー  
*World Heritage of Habsburg*



## プラハ：聖ヴィート大聖堂 を中心とした街並み

9世紀創建のプラハ城と、1344年着工の聖ヴィート大聖堂は、ボヘミア王国とのちのハプスブルク帝国における政治・宗教の心臓部でした。大聖堂は王冠・聖遺物・王墓を収めるカトリックの聖なる宝庫であり、ゴシック尖塔とバロック屋根が重なる城下の街並み全体が、帝国期中欧都市の原型をいまも示しています。



## ブルノ：シュピルベルク城 と聖ペトロ・パウロ大聖堂

13世紀創建のシュピルベルク城は、ハプスブルク時代に巨大なバロック要塞兼「帝国最悪の牢獄」へと変貌し、反体制派を収容する威圧的な存在でした。その向かいに11～12世紀起源の聖ペトロ・パウロ大聖堂がそびえ、バロック内装とゴシック外観が重なる丘のシルエットは、軍事都市ブルノにおけるカトリックの精神的中軸として、旧市街の石畳と一体の都市景観をつくっています。



## ブダペスト：ドナウ河畔の ハンガリー国会議事堂

19世紀末、オーストリア＝ハンガリー二重帝国の躍進を象徴する建物として建設されたブダペスト国会議事堂（1885～1904）は、ドナウ河畔にそびえる欧州屈指のネオ・ゴシック建築である。全長268メートルの壮麗な外観は、帝国の威信とハンガリー王国の独自性を体現し、河面に映る姿は都市景観を象徴する。河岸一帯は世界遺産に登録され、今もハプスブルク帝国期の都市美学と国家の誇りを静かに語り続ける。

## シェーンブルン宮殿と ウィーン歴史地区の街並み

1683年のオスマン軍侵攻後、狩猟館から拡張されたシェーンブルン宮殿は、18世紀にハプスブルク皇帝一家の夏の離宮として整えられ、そのバロック庭園とロココ宮殿は帝国の繁栄の象徴となりました。インネレ・シュタットのホーフブルクやカトリック大聖堂、19世紀のリングシュトラッセ沿いの議会・オペラ・博物館群とあわせて、ウィーン全体が「帝国首都」の都市デザインとカトリック宮廷文化をいまでも体現する、層の厚い世界遺産都市景観です。



## メルク修道院と ヴァッハウ渓谷の景観

1089年創建のベネディクト会修道院は、1702～1746年にかけてヤーコプ・ブランタウアーにより壮大なバロック僧院へと再建されました。丘の上に建つ黄金色の教会と図書館は、建築・絵画・装飾芸術が融合した「バロックの総合芸術」として、ドナウ流域ヴァッハウ文化景観の西の門を成します。ぶどう畑と中世以来の小都市が連なる谷全体が、修道院を核としたカトリック的農村文明の時間層を可視化しています。



## エル・エスコリアル 修道院とその周辺

サン・ロレンソ・デ・エル・エスコリアル修道院は、フェリペ2世が1563～1584年に築いた修道院・王宮・王家霊廟・学問センターを兼ねる巨大複合体で、カトリック改革期スペイン帝国の精神的首都ともいえる存在です。禁欲的なヘレリア様式の幾何学的ファサードと中庭は、祈りと権力が一体化したハプスブルク世界帝国の自己像を体現し、山あいの静寂な村落景観とともに、信仰国家スペインの黄金時代をいまに伝えます。



# Column

## 高市首相誕生！

### 迫る緊急事態条項と財産課税!?

text by Naoki Nishimura

女性初の総理として華々しくデビューした高市総理ですが、オールドメディアでは批判される一方で、反財務省スタンスを取る姿は、殺害された安部元首相やトランプ大統領にも似ているところがあると見受けられます。本章では、高市氏が実行しようとしている政策について、重要だと思われる以下の項目について考えてみたいと思います。

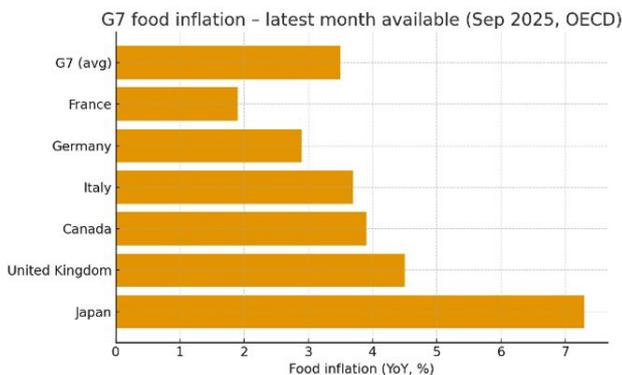
#### ①物価高対策

#### ②戦争誘発!?!と緊急事態条項

#### ③財産課税

##### ①物価高対策

現在、日本の物価（特に食料品）はG7内でも非常に高い状態が続いています。



2025年9月は日本の食料品インフレ率は7%を超えています!

全体のCPIも3%前後を推移しており、高市氏が言及するようにこの要因はコストプッシュ型です。いわゆる正常な需要と供給の関係性による需要が増えているわけでは無いインフレだということです。国民からすれば別に贅沢を求めているわけでもないのに物価だけ上



がっていく=「実質賃金の低下」です。

この対策として、消費減税やガソリン税（暫定税率）の廃止、エネルギー補助・支援などをうたっていますが、2025年度内には実現するのはガソリン暫定税率の廃止くらいです。消費税減税の道のは遠く、財務省の壁が分厚く高く立ちはだかっています。

この物価高対策を現状の日本でどのように行うかは、非常に難しい舵取りです。

まず、そもそも日本の国債残高は対GDP比で先進諸国の中で最も高い250%超えです。この中で仮に財務省の壁を打ち破り、財政支出が実現できたとしても、更なる円安（国債信用低下）を招き物価はさらに上昇します。※MMT理論は理論としてあっても現実はこのように動きません。

唯一の生き残る道は、財政支出によって手取りが増えた民間が消費を活発化し、GDPを押し上げ、増えた国債残高のGDP割合を減らすという事のみです。

これは奇跡に近い事です。前述の通り現在のインフレは私達民間人の需要が増えている事が要因ではありません。逆にインフレで需要は冷えています。その冷えた環境の中で、需要を活性化するには、熱いお湯などをかけるショック療法を導入しなければ困難です。

高市氏にそれができるのか?

そう、彼女の抱える壁は、財務省という分厚い壁と、その先にあるもう一つの分厚い民間の心の壁があるわけでは

この二つの壁を超える事ができるか!?

個人的に希望は持ちつつも、ほぼ不可能であると思っています。皆さんはどうお感じになられていらっしゃいますか?

## ②戦争誘発!?!と緊急事態条項

高市早苗首相は11月7日の衆院予算委員会で、米中衝突も想定される台湾有事について、日本が集団的自衛権を行使できる「存立危機事態」にあたる具体例を問われ、「戦艦を使って、武力の行使も伴うものであれば、これはどう考えても存立危機事態になりうるケースだと私は考える」と答弁した。これに対して、早速中国の駐大阪総領事は高市首相に「その汚い首は一瞬の躊躇もなく斬ってやる」とSNSで発言したことで(すぐに記事は削除)話題になったが、物事の本質として、私達民間人はこの事を本気で考えなければならないと思う。

「防衛」を考えた時に、日本はアメリカの傘下で、基本的にあまり多くを語らず、あくまでも専守防衛を掲げて今も動いている。しかし、それでは国は守れない!という意見もあり高市氏はどちらかという、この積極的防衛に近いと思われる。

「緊急事態条項」もそのうちの一つで、以前からこの実現に意欲的である。ご存じの通り、緊急事態条項は、政府が緊急事態と認めた時、私達国民の人権は無視される事になる。2020年のコロナの時のように(あの時は努力義務)マスクの強制化、ワクチンの強制化などになる可能性が大。仮に戦争などの有事が起きた時には、それこそ現在守られている私有財産の権利までも侵される可能性がある法律がこの緊急事態条項である。この事はいわゆる陰謀論者の中では初歩的な内容であることから広く知られているが、日本弁護士連合会でも2022年に正式に懸念を表している。

## ③財産課税

高市氏が今後どのくらい選挙前に言っていた事を実現できるか?トランプ大統領のように少々やりすぎくらいやるのか?それとも2枚の壁の前に屈するのか?

いずれにせよ、最終的な出口はこの「財産課税」に行きつくしかないのか!?

信用創造という現貨幣システムにおいて、アメリカも日本も世界各国、政府が国債を発行して中央銀行と民間銀行がそれを引き受けて現金を生み出す。その国債は国の借金として位置付けられ、その借金の規模が大きくなりすぎないようにGDP経済活動を成長させ続けなければならない。日本は政府債務がGDP比250%である世界で最も借金比率が高い国家である。何度も言うが、MMT理論は理論的に正しかったとしても、制度自体がMMT理論で成り立っているわけではないので、政府債務は民間が経済活動 or 資産で返済するしか方法はない。

この財産課税がGREAT RESETに位置付けられるのか? 800年周期という800年の狭間に起きるのか? 1946年2月の金融緊急措置例によって課せられた財産税の悲劇は繰り返されることになるのか?

この話は陰謀論で片付けられることが多い気がするが、AIもこの実情に対して「経済・歴史・財政・制度設計の観点すべてから見て、十分にあり得る未来であると考えられます」と断言する。

陰謀論で言えば、働きバチが稼いだ蜜の回収時期が来ただけである。

それは20××年に・・・



# バイエルン選帝侯マキシミアン1世

## 戦乱を超えて栄光を築いた信仰の守護者

17世紀初頭のヨーロッパは、宗教改革と対抗宗教改革の激突が政治の根幹を揺るがした時代である。

その動乱の中で信仰と統治を両立させ、バイエルン公国をヨーロッパ随一のカトリック諸侯国へと導いた人物が、マキシミアン1世(1573-1651)である。

彼は若くして名家ヴィッテルスバッハ家の家督を継ぎ、政治・軍事・経済・文化の各分野で非凡な手腕を発揮した。

とりわけ信仰への確信は、彼のすべての政治判断の根幹にあった。三十年戦争(1618-1648)では神聖ローマ皇帝フェルディナント2世を支援し、カトリック連盟の盟主としてヨーロッパ戦局を主導。

1623年には選帝侯の地位を授かり、以後「選帝侯マキシミアン1世」として神聖ローマ帝国史にその名を刻むことになる。

だが、彼の治世の真価は戦功だけにとどまらない。長引く戦乱で疲弊した南ドイツを立て直すため、経済・財政の再建に取り組み、行政組織と貨幣制度を整備した。

特にミュンヘン造幣局の再編は重要で、ここから高純度の金貨・銀貨が相次いで発行されることになる。「ダカット金貨」は、その精緻な意匠と鑄造技術の高さで知られ、貨幣学史における芸術的頂点の一つとして高く評価されている。彼にとって貨幣とは単なる経済手段ではなく、「信仰と統治の象徴」であった。

1640年前後、バイエルンはスウェーデン軍の侵攻によって存亡の危機を迎える。マキシミアンはミュンヘンの城壁を大幅に強化し、都市防衛を再構築。その偉業を記念して発行されたのが、後世に伝わる華麗な記念金貨群である。

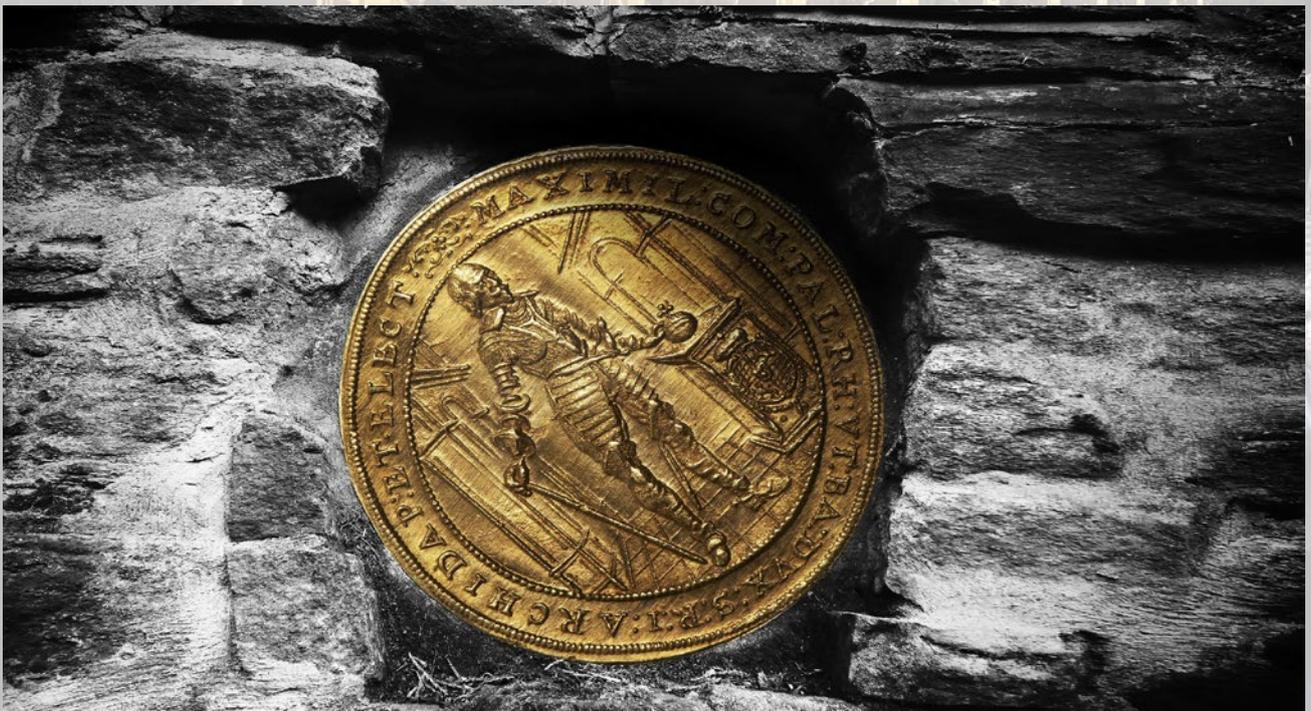
そこには「主の加護なくして国家の繁栄はあり得ない」という彼の信念が刻まれ、宗教的モチーフと芸術性が見事に融合している。

ラテン語の銘文に聖書詩篇を引用し、信仰を通じた都市の守護を表現する構成は、バイエルン宮廷芸術の粋を示すものだった。

マキシミアン1世の貨幣は、当時の金銀価値を超えて、ヨーロッパの政治思想と宗教精神を映す歴史的ドキュメントである。

彼の造幣政策は後のバイエルン選帝侯国、さらには近代ドイツ貨幣制度の礎となった。1648年のウェストファリア条約によってその選帝侯位が正式に承認されると、バイエルンは信仰と秩序の象徴として再生し、新たな黄金時代を迎える。

その時代に発行された金貨は、単なる金属ではなく、信仰の力が国家を守るという理念を刻んだ輝く証であり、マキシミアン1世という稀代の統治者の精神を、永遠の金の光に封じ込めている。



# ドイツ 1640年 バイエルン選帝侯マキシミアン1世 5ダカット金貨 Date Devided MS64



発行枚数: 不明 サイズ: **38.00mm/17.35g** 希少性:★★★★  
ご案内価格(税込)入荷前: **15,930,000円** 入荷後: **17,130,000円** 入荷時期: **2026年1月**

表面: 甲冑を装備したマキシミアン1世の全身像

右手に指揮杖、左手は十字架付きの宝珠(神から与えられた統治権の象徴)

MAXIMIL: COM: PAL: RH: VT: BA: DVX: S: R: I: ARCHIDAP: ET. ELECT  
(ライン宮中伯兼バイエルン公、神聖ローマ帝国大侍従長、選帝侯マキシミアン)

裏面: マキシミアン1世が統治したバイエルン公国の都市景観、上空に聖母マリアと左右に智天使ケルビム

NISI DOMINUS CUSTODIERIT CIVITATEM FRUSTRA VIGILAT QUI CUSTODIT EAM

(主が町を守らなければ、見張り人が守ってもむなし)人間の努力や軍備だけでは不十分で、  
神の加護こそが都市と民を守るという強い宗教的メッセージ

ミュンヘンの再建と信仰の守護を讃えて鑄造された、壮麗な5ダカット金貨。

表面には甲冑をまとったマキシミアン1世の全身像。統治者の威厳と神への服従を象徴するオーブを手にする。均整の取れた構図と高い浮彫技術は当時のドイツ造幣芸術の精華を示す。

真の魅力は裏面にある。新設されたミュンヘンの城壁と都市景観が、極めて緻密な線刻で描かれ、天上には聖母子像と二体の天使が柔らかに舞う。

塔の一本一本、雲の陰影までもが金の表面に刻まれ、17世紀バイエルンの信仰都市を神の視点"ら俯瞰したかのような構図を成す。

その完成度は彫刻芸術の域に達しており、宗教的荘厳と都市美の調和が息づく。年号「16-40」を左右に分割したバリエーションは極めて稀少である。

保存状態、造形美、歴史的背景の三拍子が揃った、まさに黄金時代の芸術品。

宗教と都市文化、そして貨幣美術が一点に交わる、比類なきコレクターズピースである。



# 北ドイツを黄金に照らしたポルトガレッサーの世界

16～17世紀、ハンブルク、リューベック、ブレーメンなど北ドイツの自由都市は宗教改革後の独自の精神と商業的繁栄を象徴するために、壮麗な大判金貨「ポルトガレッサー」を発行した。

ポルトガルの大金貨ポルトゲスに由来したこの金貨は、外交贈答や記念、都市の誇りを示すために造られた特別鑄造品である。

これらの金貨は、通貨というよりも「都市の名刺」とも呼ぶべき存在で、神への感謝、平和の祈り、市民の誠実をテーマにした寓意的デザインが特徴である。

精緻な都市景観や宗教的モチーフは、当時の彫金技術の粋を示すものであり、その芸術的完成度はルネサンスからバロックへの移行期ヨーロッパ美術の一断面を映している。本特集では、平和と信仰を主題とした「ピンネベルク協定記念金貨」をはじめ、ハンブルクを代表する5枚のポルトガレッサーを厳選紹介。

いずれも発行枚数は極めて少なく、当時の支配層や有力商人にのみ贈られた希少品である。

黄金の輝きに刻まれたのは、ただの富ではなく、信仰と自治、そして北ドイツ都市が世界へ誇った精神の記録である。

## ドイツ 1713年 ハンブルク銀行発行 10ダカット金貨 (バンクポルトガレッサー) MS61



発行枚数：不明 サイズ：**53.00mm/34.79g**

希少性：★★★★

ご案内価格(税込)：**12,800,000円**

バンクポルトガレッサーは、ハンブルク銀行が自らの信用と商業的威信を示すために発行した大判金貨であり、17～18世紀の北ドイツ経済を象徴する存在。

実用通貨ではなく、商人や国家元首への贈答・外交記念として造られた為現存数は極めて少ない。

ハンブルクは当時エルベ川を拠点に北海交易で栄えた自由都市であり、その繁栄と信仰をこの一枚に凝縮した。

重厚なデザインと寓意的な銘文、高純度の金が織りなす造形美は、ヨーロッパ貨幣史の最高峰に位置する。近年はオークション等で評価が急上昇し、バンクポルトガレッサーはヨーロッパ金貨の頂点銘柄として世界市場で強い人気を誇る。

表面：背景にはハンブルク都市景観。海神ネプチューンがエルベ川の源を象徴する壺に寄りかかり、トライデント(三叉槍)を手に港湾都市ハンブルクを見守る。

SCHLAEFSTU IN RUH AUF MOS UND SAND SO BLÜHET HAMBURGS FREUDE N STAND  
(平穏と静寂のうちにこそ、ハンブルクの繁栄と喜びは花開く)

裏面：時の神クロノスが商業の神ヘルメスの手を取り導く姿が描かれ、背後には帆船と積荷の山。

DEN SELBST DIE ZEIT FÜHRT BEY DER HAND DER IRRET NICHT ZUR SEE UND LAND  
「時がその手を導く者は、海でも陸でも道を誤らない」

# ドイツ 1679年 ハンブルク都市景観 ピンネベルク協定制定記念 10ダカット金貨(ポルトガレッサー) 裸(MS相当) ※グレードを保障するものではありません



発行枚数: 不明 サイズ: **53.00mm/34.62g**  
希少性: ★★★★★ ご案内価格(税込): **21,800,000円**

表面: エルベ川を臨むハンブルクの壮麗な都市景観。上空から天使が二本の豊穡の角を傾け、果実と花々を降らせる。  
DEINE GUTE HERR SEY ÜBER UNS WIE WIR AUFF DICH HOFFEN  
(主よ、我らがあなたに望みを託すように、あなたの慈しみを我らの上に)

裏面: 抱擁する擬人化された善と誠実、足元には擬人化された嫉妬という寓話的構図。  
WO GÜT VND TREU SICH KUSSEN LIGSTV O NEID ZVN FÜSSEN  
(善と誠実が抱き合うところ、そこでは嫉妬が足元に伏す)

ハンブルクにおけるポルトガレッサーの歴史は、単なる貨幣を超えた都市の象徴である。

本作 1679年ピンネベルク協定制定記念は、宗教的寓意と美術的完成度が最も高いと評され、ドイツ金貨芸術の最高峰に位置づけられる。

デンマークとの長い抗争を終結させた講和を記念し、ハンブルクが独立と繁栄を取り戻した象徴として制作された 1枚で、平和と信仰の両面を讃える意図が明確に読み取れる。

この金貨が持つ魅力はまず、その比類なき造形美にある。表面には港町ハンブルク都市景観が緻密に刻まれ、尖塔群と帆船が織りなす風景の上空から天使が果実と花を降らせる。

金属とは思えぬ柔らかな光と線の調和は、17世紀バロック期の彫金技術の頂である。

裏面では「善」と「誠実」の寓意像が抱擁し、足元に「嫉妬」が打ち伏せられる。この構図は、戦争と不和を乗り越えた人類の理想を視覚化した宗教的メッセージとして深い感動を与える。

同時に、本作は貨幣史の中でも極めて稀少な存在である。34.62gの大判で、発行はごく僅か。現在確認されている個体は数点到り過ぎず、完全な状態で残るものは世界的にも希少だ。名工ヨハン・レーテケ父子の工房による制作とされ、細部の線刻や空間表現には特有の繊細な手仕事を感じられる。

宗教的象徴を芸術として昇華させた技法は、当時のハンブルクが持つ文化水準と造幣能力の高さを如実に物語っている。

# ドイツ 1728年 ハンブルク銀行発行 5ダカット金貨 (1/2バンクポルトガレッサー) MS62



発行枚数：不明 サイズ：**45.00mm/17.33g**  
希少性：★★★★ ご案内価格(税込)：**6,200,000円**

表面：商業の神マーキュリーと海神ネプチューンが天秤と算盤を前に立ち、経済秩序と海上交易の調和を象徴する。  
下部にはハンブルク市の紋章  
DENNOCH AUS MANDER FREIHEIT GEHT DIE GUTE ZUCHT UND ORDNUNG ABEN  
(自由の中に秩序あり)

裏面：二つの祭壇が並び、左には「神の愛」を象徴する光輝く心臓とエホバの聖名を戴く三角形。  
右の祭壇には富の神マモンの名を刻む心臓が置かれ、その上には枯れかけた月桂冠。  
天上の雲からそれぞれ神の手が現れ、冠と月桂を掲げる対比構図は、「信仰の富は永遠、世俗の富は朽ちる」という宗教的寓意を明確に示す。左右には豊穡の穂と茨が彫られ、善悪・霊肉の対立を象徴している。  
OHNE GOTT NICH HABEN GOLD SO NIMMER UT DIE STET REICH ZU WERDEN  
(信仰を失えば、都市は金を積んでも豊かにはならない)

ハンブルクのバンクポルトガレッサーは、商業国家の信用を象徴する大判金貨として知られるが、本作はその中でも思想的完成度の高い一枚。

啓蒙思想の台頭期に、自由と規律、信仰と経済という普遍的テーマを寓意彫刻で表現した点で、貨幣芸術を超えた哲学的作品といえる。

17.33gの金面に極限の精密さで刻まれた構図はまさに神業。NGC MS62の保存状態を誇る現存個体はごく僅少で、ハンブルク金貨の中でも特に評価が高い。

宗教と理性、倫理と経済の両立を黄金に封じた、18世紀北ドイツの精神を象徴する傑作である。

コラム：当バンクポルトガレッサーの銘文について

「信仰を失えば、都市は金を積んでも豊かにはならない」

この銘文は、ハンブルクが富と信仰の狭間で見出した哲学を象徴する。当時ハンブルクはドイツ最大の商業都市として莫大な富を誇っていたが、同時に商業主義の中で道徳の衰退が懸念されていた。

その状況に対し、この金貨は明確な教訓を刻む。裏面の図像では、左の祭壇に輝く心臓(神の愛)、右の祭壇に「MAMMON(富の神)」と刻まれた心臓が置かれている。上空からは二つの手がそれぞれ冠と月桂冠を差し伸べ、前者は永遠の栄誉、後者は枯れゆく世俗の栄光を示す。

その下には穂と茨が対をなし、信仰がもたらす豊穡と欲望が生む苦難という二面性を象徴している。

すなわちこの銘文は、「商業と富を追い求める中でも、神への敬虔と倫理を忘れてはならない」というハンブルク共和国の精神を金の上に刻んだもの。単なる宗教文言ではなく、都市が自らの繁栄の根源を問い直した黄金の警告といえる。

# ドイツ 1750年 聖ミハエル教会 落雷火災事件 5ダカット金貨(1/2バンクポルトガレッサー) MS62



発行枚数：不明 サイズ：**39.06mm/17.31g**  
希少性：★★★★★ ご案内価格(税込)：**7,980,000円**

表面：1750年3月10日、落雷により炎上した聖ミハエル教会(ミヒェル)の惨事を描く。

天より稲妻が塔を貫き、教会は炎に包まれるが、雲間から天使が舞い降り、神の光が差し込む。

IM UNGLÜCKE GNADENBLICKE(不幸の中にも、恩寵の眼差しを)

災厄の中でも信仰を失わぬ精神を象徴する銘文。

ハンブルク市民が恐怖と絶望の中に見出した神の慈悲を金の表面に刻んだ構図である。

下部には発行年「17」「50」と刻まれ、現地史料によればこの金貨は再建基金の象徴として配布されたと考えられている。

裏面：天使の姿をした少年が、折れた枝を新しい幹に接ぎ木する寓意的場面。背景にはハンブルク都市景観。

ER VERLETZET UND ERSETZET(神は傷つけ、また癒す：ヨブ記5章より)

破壊と再生を司る神の摂理を説いた銘文である。



雷が原因と言われる1750年の聖ミハエル教会火災はハンブルク史における最大の悲劇の一つであったが、同時にこの都市の信仰と再生の象徴となった。

この1/2ポルトガレッサーはその出来事を金に封じた宗教的記念金貨である。

炎と天使、接ぎ木と再生という対照的なモチーフは、神の試練と慈悲を寓意的に描く。重量17.31g、直径39mmの堂々たる造形は、18世紀ハンブルク造幣芸術の到達点といえる。現存数は極めて少なく、NGC MS62の保存状態は世界でもこの1枚のみ。災厄を越えて再建へ歩んだ市民の信仰と誇りを永遠に伝える黄金の証言である。

# ドイツ 1803年 ハンブルク海上保険組合発足記念 10ダカット金貨（バンクポルトガレッサー）MS60



発行枚数：不明 サイズ：**53.00mm/33.87g**  
希少性：★★★★ ご案内価格(税込)：**8,780,000円**

表面：大型帆船が穏やかな海を進み、背景には灯台が堂々と立つ。

SICHER AUCH IN GEFÄHREN(危険の中にあってもなお安全)

MUTH MIT VORSICHT(勇気と慎重)

これらは保険制度の理念を表現する。

この金貨は1793年に設立されたハンブルク保険組合の1803年再編を記念して発行されたものであり、海上貿易の安全と商人たちの信頼を讃える物。

裏面：葦と鳶の花輪で囲まれた銘文

HAMBURGSCH E ASSECURANZ SOCIETÄT ERRICHTET

1793 DEM VORBILDE TREU ERNEUERT 1803

(ハンブルク保険組合、1793年創立、模範に忠実に1803年再建)]

当ポルトガレッサーは、商業都市ハンブルクが海上保険制度の確立を祝して発行した大判金貨であり、同市の金融史・航海史を代表する記念作。デザインはベルリン造幣局の名工ダニエル・フリードリヒ・ロースと推測される。商業組合による自治と信頼の証として位置づけられ、ハンブルク黄金貨の中でも特に人気が高い。

中世ハンブルクはエルベ川の河口に開かれた自由都市として、北海交易の中心に栄えた。

ハンザ同盟の主要都市としてヨーロッパ各地に商館を構え、穀物・毛織物・ワイン・金属を積んだ商船が絶えず往来した。しかし豊かな航路は同時に略奪の標的でもあり、デンマーク沖やバルト海沿岸には海賊が存在していた。海賊は当初、戦時の私掠免許を持つ半合法の海の傭兵だった。

やがて商船を襲い、北海一帯に恐れられる存在となった。海賊だけでなく、嵐や座礁、疫病、火災など航海には常に危険が伴った。

莫大な積荷を一隻に託す商人にとって、損失は破滅に等しい。こうした不安の中で誕生したのが、リスクを分担する仕組み=すなわち海上保険である。

ハンブルクの商人たちは仲間同士で損害を補償し合う協定を結び、これが後に組織的な保険組合へと発展した。1793年に設立されたハンブルク保険組合は、その流れを制度化した世界でも最古級の海上保険会社の一つである。

組合は商人たちの信頼を象徴する存在であり、1803年には再編を記念して10ダカット金貨を発行した。

ハンブルクの商人にとって、富とは単なる金ではなく信頼であった。海賊の脅威と自然の猛威に抗し、理性と共同体の力で安全を築こうとした精神が、この金貨に凝縮されている。

勇気と慎重、自由と秩序。それこそが海に生きた都市ハンブルクの黄金の信条であったと言える。

## ドイツ 1730年 メミンゲン都市景観/アウクスブルク信仰告白 200周年記念 ダカット金貨 MS62PL



発行枚数：不明  
 サイズ：**21.00mm/3.47g**  
 希少性：★★★  
 ご案内価格(税込)：**1,980,000円**

表面：空を舞う鷲、その下に要塞都市メミンゲン都市景観。

DOMINE HUMILIA RESPICE(主よ、卑しき者を顧みたまえ)

宗教戦乱を越えて神の慈悲を求める祈りの言葉。1730年はルター派信仰の

基本文書「アウクスブルク信仰告白」の提出から200周年にあたり、メミンゲンはその精神を称えるためこの金メダルを铸造した。

裏面：女性が角笛を掲げ、祭壇の上に置かれた燃え盛る聖書と石板(VD: Verbum Dei=神の言葉)に寄り添う。

IN OMNEM TERRAM EXIVIT SONUS EIUS(その声は全地に響いた：詩編 19編より)

神の言葉が世界中に伝わることを意味する。女性は信仰の擬人像であり、

神の啓示を告げる預言者の姿として描かれている。

## ドイツ 1745-65年 フランツ1世 レーゲンスブルク都市景観 ダカット金貨 MS62



発行枚数：不明  
 サイズ：**21.00mm/3.47g**  
 希少性：★★★★☆  
 ご案内価格(税込)：**3,980,000円**

裏面：ハプスブルク家の皇帝フランツ 1世が月桂冠を戴き、胸甲と金羊毛騎士団の勲章を身に付けて右を向く肖像。

FRANC·D·G·R·I·S·A(神の恩寵によるローマ皇帝フランツ) 皇帝フランツ 1世の治世下において铸造した

代表的金貨。皇帝の統治と都市の自治が共存した帝国の縮図を一枚に凝縮した造形で、

都市景観面の緻密さは同時代のアウクスブルクやハンブルクのダカットを凌ぐ完成度を誇る。

表面：帝国自由都市レーゲンスブルク緻密な都市景観図。

上空に神の光を象徴する放射、エルベ川支流を渡る橋梁、船舶、城壁までも細密に彫り出され、

18世紀ドイツ都市景観金貨の中でも最高水準の技巧を誇る。

DVCA TVS RATISPON(レーゲンスブルクによるダカット金貨)



## TOPIC 01

# 地金の短・中・長期予想

text by Naoki Nishimura

皆さんは GOLD(金) お持ちでしょうか？

アンティークコインという現物に触れ始めてから10年強、その間にお会いした1000名を超える方々とお話していると、そのほとんどの方が金をお持ちでいらっしやると感じます。

金をお持ちの方→金は皆さんが感じている安全資産、というイメージとは短中期的にはかけ離れた値動きをすることをご存じでしたでしょうか？

金をお持ちでない方→お持ちにならない理由は何でしょうか？

私個人は You tubeなどで公言している通り1k以上はGOLDは持ちません。逆に1kは持ち続けています。その理由を含めて改めて本章で解説致します。

## ■ 結論

GOLD(金)は、その値動きに関して短期(～1年)から中期(1～5年)についての値動きは上下50%程度までの変動率が高い資産です。

逆に超長期(10年以上※5年以上ではない)では着実にその資産価値を見出し続ける(世界のインフレに負けない)ことが出来る資産であると言えます。

※そうは言っても、最高値を更新し続けた2025年、反発もあるし高値で購入することは危険性を感じる!という声も多いかと思いますが、だからこそ短中長期で物事を見て頂けるよう、本章を熟読頂ければ幸いです。

この事実は、金融関係者であれば常識中の常識です。ですが、一般民間人の私達は、「GOLDはただ安全資産だ」というイメージから保有しているという傾向が強い気がします。

## ■ GOLD(金)を正しく取り扱う

2025年は年初来150%を超える値を付けたことはご存じの通りですが、これは他NYダウ、S&P、日経平均他と比較しても最も値上がり率が高いパフォーマンスを付けたわけですが、この本質は貨幣価値が極端に大きく下落したことを意味します。ここで昨今言われている言葉が、「GOLD(金)建て」

日本人の私達は円建て or ドル建てという法定通貨建てでその価値を測っています。

東京都心のマンション価格が1億円を超えたという話がよくありますが、以下は東京都の新築マンション販売価格/坪と仮に35坪のマンションだったという設定で、変動する金価格に対して、その時に「円建て」と「ゴールド建て」でいくらなのか？

という事を示した表です。

年度	坪単価 (万円)	30坪(万円)	1kg金価格 (万円)	金必要本数
2025	353	10,590	2180	4.86
2024	333	9,990	1171	8.53
2023	321	9,630	883	10.91
2022	311	9,330	764	12.21
2021	292	8,760	640	13.69
2020	281	8,430	612	13.77
2019	268	8,040	491	16.37
2018	262	7,860	454	17.31
2017	254	7,620	457	16.67
2016	245	7,350	439	16.74
2015	228	6,840	456	15.00
2014	211	6,330	434	14.59
2013	197	5,910	445	13.28
2012	190	5,700	432	13.19
2011	200	6,000	406	14.78
2010	210	6,300	347	18.16

直近2025年、30坪のマンションを購入するのに、円換算では1億590万円です。

ゴールドでは4.86kg(1kgバー4.86本)になります。

仮に2010年では、35坪のマンションを購入するのに、円換算では6300万円です。

ゴールドでは18.16kg(1kgバー18.16本)になります。

この事実を知らない方々にとっては、衝撃の事実ではないでしょうか!?

マンション一室購入するのに、18本強必要だったのに、今は5本弱で購入できるわけです

ゴールドを資産として保有している人たちは、今世界中がバーゲンセールをうたっているようなわけです。世間的にインフレが大変だ!と言っている最中に・・・。これだけ貨幣価値が下がっている事を意味するわけですが、ここで皆さんにご提案です。

## GOLDを正しく扱いませんか!?

“正しく”とは、皆さんの資産のうち現金が必ずあると思いますが、それを基本的にGOLD(地金)で持っておくという事です。1か月以内に確実に使う現金は現金として持っておく、で良いです。しかし2か月以降先に使う現金はGOLDで持っておく。

そうすることで、皆さんの資産が常に現金→GOLDに変わる事に“習慣化”されます。

## GOLD建て

を正しく理解し、正しく活用するという事は、こういう事です。

ロンドンのユダヤ系の人々(私達)の常識です。

イメージはゴールドを保有し、毎月(3か月に一度でも)円に両替をするような感じです。

皆さん海外旅行される際に、必ず両替されますよね!?そのイメージです。

## GOLD建て

これを習慣化すると確実に資産は増えます。※マンション価格で提示の通り

しかし、これには少しテクニックを使っていかなければなりません。

何故ならば、冒頭に記述した通り、金は短中期的に価格変動率が高いからです。

## ■GOLDの短・中・長期価格予想

ここから予想する価格推移の“理由”を理解する事で、短期的に【売り時】【買い時】が見えてきます。皆さんが保有するGOLDをそれに合わせて、両替する量を増やしたり、減らしたりというコントロールをすることで、より一層資産性は高まります。どうぞご参考になさっていただければと思います。

まず、金価格の決定要素は大きく以下の通りです。

- 1、国債金利の上下(金融マネーの量)
- 2、中央銀行による購入
- 3、地政学リスク

2022年からの金価格の維持～上げの要素は2が大きく寄与しています(1000トン/年)

しかし、最も大きい要素は1です。特に基軸通貨ドルのアメリカFRBの言動です

そして、その要素に影響を与える経済指標が失業率、消費者物価指数、PMI、実質金利、VIX恐怖指数です。

本記事を記している11月中旬はアメリカ政府の閉鎖が続いている為に、これら指標が不明なまま世界は走っていますが、民間発表からの数値を見る限り、経済指標が良いとは思えない状況が予測されています。

=金融緩和が予想→金価格上昇

また、金価格の流れを追っていくと、大きく3つの波があることが分かります。

### ①大波

向かうベクトルの中心線の角度が徐々に上がっていている。そしてこの大きな波の中に中波が揺れ動いている。

### ②中波

FRBの言動による値動きがこの中波に連動します。

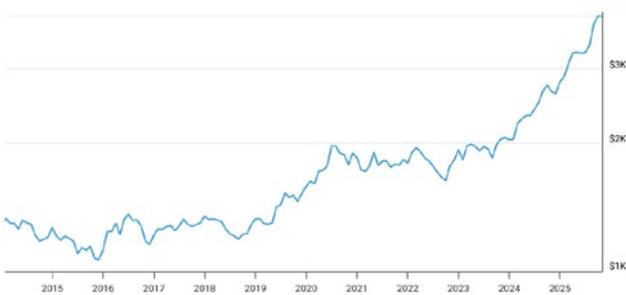
### ③小波

これはいわゆるトレードのテクニカル要素です。金もETF化されていますので、金融マネーの影響を常に受け続けています。これが金価格の変動率を上げている最も大きな要素の一つです。



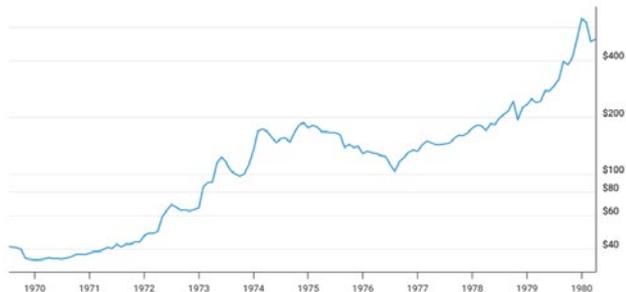
尚、この(↓)グラフで見るとこんな最高値を更新し続けている 2025年に金を買うという事はリスクである!と考える方もいらっしゃるかもしれません。

① 直近 10年間

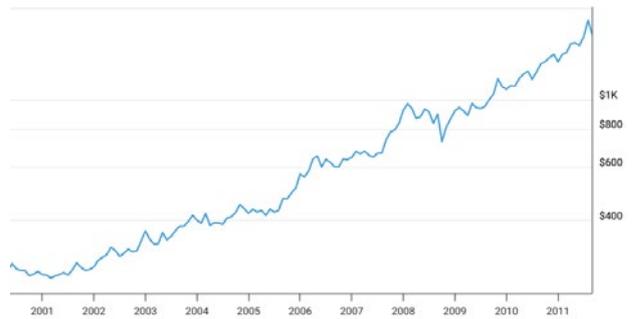


では、このグラフと価格推移を見ていかがでしょうか?  
(大波の流れ)

② 1970-1980年頃



③ 2001-2011年頃



この3つを下値から上値を比較すると、  
(1トロイオンス価格)

①下値: \$1065 / 上値: \$4000 / 価格差 3.7倍

②下値: \$35 / 上値: 670 / 価格差 19倍

③下値: \$259 / 上値: \$1826 / 価格差 7倍

確かにニクソンショックの脱金本位制後の1970年代の金の高騰=19倍は異常値と言えるかもしれませんが、2000年代の10年で7倍という実績から比較すると、現在の10年で3.7倍程度という実績は、まだ上値が上昇する可能性は現実的と見ることが出来るわけです。\*大波の流れを見ている

更に、2025年年末時点にて金融界隈で言われている事は、「AIバブルの崩壊」です。\*中波の要素  
そのバブル崩壊の規模がどうなるかは不透明だとしても、バブル崩壊が起こる事がほぼ確実視されているのが現在だとすると、金価格の上昇の確率は非常に高いのが現在だと言えるわけです。



ですから、中長期的な予測からすれば、このバブル崩壊が現実的になったとすると、  
\$4000(現在) ➔ \$7000(③における7倍という数値を①に当てているだけ) は現実的です

そして、仮にリーマンショックを超えるようなバブル崩壊となった際には、\$10000を超える事も不思議では無いわけです。ただしこの時にはドル円も円高に振れる可能性が高くなりますので、円建てで見るとまた違った見え方になる可能性は大きくあることを留意しなければなりません。

次に短中期的な予測です。(上図 2020-)  
こちらの具体的解説は Kizuna 有料会員さまのみに定期的に配信しておりますので、そちらをご参考ください。  
このように長期的にはまだ上昇途中である可能性が高いと見る方が多いわけです。

そして GOLD は希少コインと違ってその値動きの理由が明確です。

短期トレードを除けば比較的予測しやすいわけです。  
ですから、この【売り時】【買い時】時期を理解しながら、資産を GOLD(金) を軸に持つことで非常に強い資産形成が実現できるという訳です。

ちなみに、当社のお客様からは、地金はやはり支払調書制度が嫌だという方が非常に多いのも現実です。ですから当社でご案内している「地金系コイン」が支持されてい

るという事でもあります。

#### ■ ポートフォリオの整理

地金：記述の通り資産の軸とする(換金流動性高い) ※支払調書制度あり

地金系コイン：地金+aの価格で売買(当社売買では換金流動性高い) ※支払調書制度無し

希少コイン：地金にも金融市場にも影響を受けずに独自の値動きをする(換金化は9カ月程度) ※支払調書制度無し

これを理解されたうえで、ポートフォリオを適正化されると、どんな乱世が起きようとも負けない強い資産で望める事となると思います。



# TOPIC 02

## 2025年の希少コインの動向

text by Naoki Nishimura

### ■ 2025年高額コイン実績 (~ 2025.11.9まで)

#### Numismatica Ars Classica > Auction 162

Lot number: 1008

Price realized: 1,950,000 CHF (Approx. 2,403,846 USD / 2,094,231 EUR / 1,843,269 GBP)

#### Lot description:

The Habsburg Empire  
Ferdinand III, king of Hungary 1625, king of Bohemia 1627, Emperor 1637-1657  
100 Ducats 1629, Praha mint, AV 349 g. 74mm.  
Dies by Donatus Starckh. FERDINANDVS III D G HVNG BOHEMIÆ REX Bust facing right in Spanish court attire. The legend is enclosed in a wide laurel wreath, with the initials of the die engraver at the bottom on either side, and a small shield with the value 100 stamped on it beneath.

Auction date: 6 November 2025

[Save this lot](#)

[Jump to this lot in the auction](#)

[Show lots with similar descriptions](#)



ドイツ 1629年  
フェルディナント3世  
100ダカット金貨

ハンガリー・ボヘミア王としての威信を示す贈答用巨大金貨で、現存4枚のみという極端な希少性を持つ。近世最大級の金貨として歴史的価値が突出し高額となった。

→ 約5億円

#### Oslo Myntgalleri AS > Auction 40

Lot number: 499

Price realized: 19,200,000 NOK (Approx. 1,853,550 USD / 1,645,026 EUR / 1,393,128 GBP / 1,536,778 CHF)

#### Lot description:

POLAND 100 ducats 1621 SA / II - VE (70.0 mm; 349.49 g). Bydgoszcz (Bromberg) mint. Jacob Jacobson van Emden, mintmaster, and Samuel Ammon, engraver. Sharply struck and without the blurred details which is often the case for this issue

The coin offered is from a gold emission of 100 ducats, minted at the Bydgoszcz (Bromberg) mint in 1621. It was struck with dies AA (obverse A, reverse A), with a distinctive die crack at the bottom of the reverse.

Auction date: 10 May 2025

[Save this lot](#)

[Jump to this lot in the auction](#)

[Show lots with similar descriptions](#)



ポーランド 1621年  
ジグムント3世  
100ダカット金貨

現存17枚しか確認されず、その多くが博物館収蔵品。市場に出回る個体はごく僅かで、本品は中でも状態最上級。ポーランド王権を示す巨金貨として群を抜く希少性が価格を押し上げた。

→ 約3.7億円

#### Heritage World Coin Auctions > NYINC Signature Sale 3121

Lot number: 31069

Price realized: 1,800,000 USD (Approx. 1,756,080 EUR / 1,471,860 GBP / 1,649,520 CHF)

#### Lot description:

South Africa  
Republic gold "9" Pond 1898 MS63 Prooflike NGC, Pretoria mint, KM-Unl., Hern-ZP6. The indisputable 'unicorn coin' in the entire South African series, the "Single 9 Overstamp" 1898 Pond remains unchallenged in its exclusive solitude. A distinct variant of the 130-piece "99" Pond issue (also presented in this sale), the "Single 9" Pond reportedly changed hands in a private sale in 2010, for a value documented as "multi-million Rand" by Hern. Other industry sources detail a more precise figure of R20,000,000, which was the

Auction date: 13 January 2025

[Save this lot](#)

[Jump to this lot in the auction](#)

[Show lots with similar descriptions](#)



南アフリカ共和国 1898年  
ポール・クルーガー  
9ポンド金貨

1枚のみ存在する南アフリカ貨幣界の絶対的ユニーク品。由来・所有履歴も突出し、国家級象徴性と唯一性が超高額の理由。

→ 約3.6億円

Numismatica Ars Classica > Auction 155 with David Guest Numismatics

Lot number: 2161

Price realized: 800,000 CHF (Approx. 961,076 USD / 854,012 EUR / 718,981 GBP)

Lot description:

Victoria, 1837-1901. AV Pattern Five Pounds, 1839. "Una and the Lion" type, by W. Wyon. Young head left, front fillet binding hair with five scrolls, rear fillet plain, rev. The Queen as Una guiding the British lion, no Garter star on robe, DIRIGIT legend, date in exergue, edge: plain. 38.32 g.; 12h. H F21; LS 16, dies 1/B; S.3851; WR 277. A superb and highly important coin. Crisply struck with blemish free devices and a deep cameo effect. One of less than ten examples known from this die pairing. The prototype for the Una and the Lion

Auction date: 20 May 2025

Save this lot

Jump to this lot in the auction

Show lots with similar descriptions



イギリス 1839年

ヴィクトリア女王

5ポンドパターン金貨

初期試作型で、希少な金型(ダイ)を使用した現存10枚未満の激レア金貨。女王即位期の原型試作品として象徴性が突出し、ウナとライオンの中でも別格の希少性が高額を生んだ。

→約2億円

Stack's Bowers Galleries (& Ponterio) > April 2025 Hong Kong Auction

Lot number: 40185

Price realized: 850,000 USD (Approx. 778,175 EUR / 666,400 GBP / 731,765 CHF)

Lot description:

(t) CHINA. Silver Dollar Pattern, Year 17 (1928). Tientsin Mint. PCGS SPECIMEN-62. L&M-871; K-688; KM-Pn90; WS-0111; Wenchao-pg. 558, 901 (rarity: ★★★); Ta Han/MCC-334.1 (this coin). Featuring the civilian bust the "Mukden Tiger" (Chang Tso-lin), this VERY RARE and eminently desired pattern-only issue presents an exceptional flashy and lustrous nature. The strike is quite sharp and exacting, with expert precision within the hair and mustache of Chang as well as

Auction date: 7 April 2025

Save this lot

Jump to this lot in the auction

Show lots with similar descriptions



中国 1928年 張作霖パターン銀貨

試作のみの極少数作で、現存わずか数枚級。軍閥期中国の象徴的人物と、その劇的な最期が重なる歴史的背景も評価され希少性とストーリー性が高額の理由。

→約1.7億円

Numismatica Ars Classica > Auction 158

Lot number: 31

Price realized: 900,000 CHF (Approx. 1,112,210 USD / 967,845 EUR / 852,509 GBP)

Lot description:

Alexander III, 336 – 323 and posthumous issues Decadrachm of 5 shekels, Babylon circa 327, AR 35 mm, 38.92 g. Alexander on Boukephalos facing r., spearing at a mahout and his master seated on an Indian elephant retreating r.; the mahout and master look back towards Alexander, the latter grasps the end of Alexander's sarissa with his r. hand, the former brandishes a spear in his r. hand above his head while holding two further spears in his l. hand; above, Ξ. Rev. Alexander standing l. in military attire, wearing plumed Phrygian (?) helmet and holding a thunderbolt in his r. hand and a sarissa in his l.; above, Nike flies r. to crown him. In lower l. field AB ligate. BMC 61 and pl. XXII, 18. Price, Circulation at Babylon in 323 B.C. in Mnemata: Papers in Memory of Nancy M. Waggoner, 9B (this coin). Hollstein, Taxiles' Prägung für Alexander

Auction date: 5 November 2025

Save this lot

Jump to this lot in the auction

Show lots with similar descriptions

Q IMAGE SEARCH (BETA)  
Q PEDIGREE SEARCH (BETA)



古代マケドニア王国 327BC

アレキサンダー大王 / ポロス王

デカドラクマ銀貨

アレキサンダー大王の最後の敵、インドのポロス王との戦いから帰還した事を称えた1枚。現存は10枚のみ、インド遠征を讃える宣伝のデザインと、アレクサンドロス実像の最初期肖像が重なる歴史的重要性が、超高額を支える。

→約2.3億円

Numismatica Ars Classica > Auction 158

Lot number: 93

Price realized: 800,000 CHF (Approx. 988,631 USD / 860,306 EUR / 757,785 GBP)

Lot description:

Attica, Athens

Decadrachm circa 467-465, AR 34 mm, 42.69 g. Head of Athena r., wearing crested helmet, earring and necklace; bowl ornamented with spiral and three olive leaves. Rev. A - Θ - E Owl standing facing, with spread wings; in upper l. field, olive sprig with two leaves and berry. The whole within incuse square. Svoronos pl. 8, 13-14. Seltman 450 and pl. XXI. Starr Group IIC, 57. Kraay-Hirmer 358. Fischer-Bossert, The Athenian Decadrachm, 25a (this coin illustrated). Zhuyuetang 31 (this coin).

Extremely rare and undoubtedly amongst the finest specimens in private hands. Of the highest numismatic and historical interest and undoubtedly one of the most prestigious Greek coins. A portrait of

Numismatica Ars Classica > Auction 154

Lot number: 1424

Price realized: 550,000 CHF (Approx. 657,109 USD / 587,389 EUR / 494,869 GBP)

Lot description:

\*The Roman Empire

Clodius Albinus, 195-197

Aureus 194 or later, AV 20 mm, 7.33 g. D·CLOD·SEPT·AL - BIN·CAES Bare bust r., with drapery on l. shoulder. Rev. SAECVLO FRVG - IF - ERO COS II African divinity wearing radiate crown and himation standing l. holding winged caduceus in r. hand and trident in l. C 70 var. (without drapery). BMC p. 38, note\*. RIC 9b. V. Zedelius, Untersuchungen zur Münzprägung von Pertinax bis Clodius Albinus, pl. 6, 2 var. (no drapery on l. shoulder). Calicó 2423 (these dies).

Of the highest rarity, apparently less of ten specimens known. Undoubtedly one of the finest if not the best aureus of Clodius Albinus in private hands. An absolutely spectacular portrait in the

Numismatica Ars Classica > Auction 158

Lot number: 1

Price realized: 460,000 CHF (Approx. 568,463 USD / 494,676 EUR / 435,727 GBP)

Lot description:

Hispania, Carthago Nova

Hispano-Carthaginian issues. v circa 221-206, AR 30 mm, 22.08 g. Laureate head (Melqart or Hannibal) l., with club over r. shoulder. Rev. Elephant r. De Navasques 458. CNH 12 (this obverse die). Robinson, Essays Mattingly, 6(b). ACIP 552 (this coin and the obverse illustrated on the front cover of the catalogue).

Of the highest rarity, possibly the finest of five specimens known of which only three are in private hands. An issue of tremendous fascination and historical importance with a superb portrait of excellent Hellenistic style struck in high relief on excellent metal. Light old cabinet tone, almost invisible marks otherwise good extremely fine

Auction date: 5 November 2025

Save this lot

Jump to this lot in the auction

Show lots with similar descriptions

Q IMAGE SEARCH (BETA)

Q PEDIGREE SEARCH (BETA)



→ 約 2 億円

古代アテネ 467BC アテナと  
フクロウ デカドラクマ銀貨  
通常横向きのフクロウが、威嚇する  
ように羽を広げて正面を向いて  
いるレアタイプ。  
40 枚程度が現存していると推測さ  
れ、市場に出てきた時は「アン  
ティークコイン界最大の事件」と  
して騒がれた。

Auction date: 19 May 2025

Save this lot

Jump to this lot in the auction

Show lots with similar descriptions

Q IMAGE SEARCH (BETA)

Q PEDIGREE SEARCH (BETA)



→ 約 1.4 億円

古代ローマ帝国 195AD  
クロディウス・アルピヌス  
アウレウス金貨  
現存 10 枚未満の極稀少タイプで、  
肖像の出来・打刻・保存が卓越。  
短期間のみ造られた帝位争奪期の  
政権交代期金貨で、政治的背景と  
圧倒的希少性が高額の決定要因。

Auction date: 5 November 2025

Save this lot

Jump to this lot in the auction

Show lots with similar descriptions

Q IMAGE SEARCH (BETA)

Q PEDIGREE SEARCH (BETA)



→ 約 1.2 億円

古代カルタゴ 221BC  
ハンニバル ノヴァ銀貨  
ハンニバルを直接模写した可能性  
が非常に高いという銀貨。現存 5  
枚中 2 枚は美術館、3 枚はコレク  
ター所有。  
裏面には戦争に使われた象を刻印  
した、第二次ポエニ戦争期の最重  
要プロパガンダ貨で、その超希少  
性と歴史性が高額の理由。

## ■コメント

さあ、いかがでしょうか!?

✓初めて見たコインばかりだ!

✓単位が億円・・・

✓ハプスブルグ、英国、南アフリカ、中国、古代と幅が広い・・・

✓ウナはさすがに強い!?(いえ、実はウナの価格実績は少し下がっているのです)

✓その銀貨はハンニバル!?フクロウ銀貨が2億円!?

様々な感想をお持ちになられたのではないかと思います。

本年 2025年度も世界中のほぼ全てのオークションに参加して参りました。

その数・・・100はゆうに超えます。ほぼ毎日のように世界中どこかで行われているオークション、そのピークは9-11月です。よってここから2025年12月以降の市場価格というものは、この11月までにほぼ決まってくると言っても過言ではありません。

## ■傾向は?

では、その傾向とはどうなのか?

✓まず、そもそも世界の高インフレや金価格の高騰に対しては、比較的穏やかな安定した価格変遷というところが総論です。

✓各論では、より希少性の高いモノは想定30%~50%増という傾向が続いています

✓逆に出現頻度が多いモノは世界のインフレに負けている傾向があります。特にウナとライオン(1839年オリジナル)発行枚数400枚に対して、2025年だけで恐ら

く20枚ほど出現したと思われます。例年多くても10枚程度です。それがこれだけ出現すれば価格は落ちます。それでもウナの強いところは暴落ではなく20%程度下落している程度に収まっています。また出現頻度が落ちてくると価格は戻っていくと思われます。

✓金価格の上昇によって、地金系コイン=いわゆるモダン系のコインの価格は高騰しています。金価格と連動しますので、当然の結果ですが、一つの特徴はその地金系コインでも地金価格以上に高騰し始めてきているモノがあるという事です。特に発行枚数が1000枚を切るようなモノで高鑑定コインは今まで地金価格+10-20%程度だったものが、30%を超えてきています。いわゆる付加価値部分の高騰です。これは、地金すら購入することが出来ない「金の不足」という一般市場に対して地金系コインへの需要が急増した現象と見る事が出来ます。

また、日本国内においては地金の支払調書制度を嫌う傾向の需要が増えている事も要因としてあげられます。

## ■結論と惨敗結果

地金系コインも希少コインも強し!しかしながら、出現頻度の多いモノなどはインフレ負けしているモノもあり、短期的にはそういった逆にお得なコインを狙うという事もアリです。中長期的には、やはりユダヤ系の趣味需要で成り立っているマーケットはその底値が固く、分厚い岩盤が私達の不安定な資産運用状況を支えてくれていると実感します。

ちなみに、以下11月のオークションで惨敗(取れなかった)したオークション実績です。

※オークション中にスクショしたものに なります



# Great Conjunction

宇宙と文明

木星と土星の演舞

## グレートコンジャンクション

—宇宙が刻む文明のリズム—

夜空を見上げると、太陽、月、そして星々は絶えず動き続けている。しかし、その中で最も「時間の重さ」を感じさせる瞬間は、惑星同士が天空で寄り添うように並ぶ“コンジャンクション（会合）”だ。

惑星の会合そのものはそれほど珍しい現象ではない。水星や金星のような内惑星は、しばしば太陽の近くで接近し、火星や外惑星も、周期の違いによって何度も空の中で交差する。だが、それらはあくまで天体力学の自然な結果であり、目を奪われる美しさはあっても、時代の節目を感じさせる「重さ」はない。ところが、例外がひとつだけある。

太陽系で最大の惑星・木星と、2番目に大きな惑星・土星。この二つが約20年ごとに織りなす接近——グレートコンジャンクションである。

木星はおおよそ12年、土星は約29年で太陽を巡る。その異なる軌道が作り出す会合は、20年に一度というゆっくりした天の拍動を刻む。しかも、その接近の度合いや起こる星座（エレメント）が、数百年スケールで「変調」を繰り返すため、占

星術師はもちろん、多くの天文学者・歴史家がこの周期に特別な意味を見出してきた。

木星は「拡大と繁栄」を象徴し、土星は「制約と構造」を象徴すると言われる。もし人類文明が、この二つの巨大惑星が描く長いリズムの影響をわずかでも受けていたのだとしたら？

その問いは、古代から続く神話的直感だけでなく、近代以降の歴史観とも奇妙に共鳴してしまう。

実際、人類の文明史を振り返ると、20年周期の拍動の背後に、より長大な「王朝交代の周期」や「思想の転換点」が浮かび上がる。そしてさらにその奥には、約800年・1600年という驚くべき長期周期が眠っている。

宇宙はただの背景ではない。

私たちは、天体の運動という巨大なメトロノームの中で、知らぬ間に息をしているのかもしれない。

本特集では、グレートコンジャンクションの歴史的意義、天文学的背景、そして文明との不思議な呼応を、最新の知見とともに紐解いていく。宇宙と文明、その二つのリズムが重なった瞬間に何が生まれ、何が終わったのか——その深層へと旅立とう。

## 木星(Jupiter) 「世界の拡大と繁栄を象徴する星」

木星は、ローマ神話の最高神ユピテル（Jupiter）に由来する。ギリシャ名はゼウス（Zeus）。すなわち、「神々の王」そのものだ。天と雷を司り、

王権、正義、秩序の守護者であり、国家の運命を左右する存在。

古代人にとって、夜空で最も強く輝く惑星である木星は、「世界の膨張と繁栄を象徴する星」として特別扱いされてきた。

### ■ 基本データ(天文学的情報)

分類: ガス巨大惑星(Gas Giant)  
 半径: 約69,911 km(地球の約**11**倍)  
 質量: 地球の約**318**倍  
 体積: 地球の約**1,321**倍  
 密度: 1.33 g/cm<sup>3</sup>(非常に低密度)  
 主成分: 水素(約90%)、ヘリウム(約10%)  
 微量のメタン・アンモニア・水蒸気  
 自転周期: 約**9時間56分**(太陽系最速)  
 公転周期: **11.86**年

公転軌道長半径: 約**5.2** AU  
 (地球の5.2倍、7億7800万 km)  
 最大等級(接近時の明るさ): 約-2.94等  
 内部の最大圧力: 数千万気圧以上  
 (地球の中心を遥かに超える)  
 陸地: なし。全体が深い大気と  
 液体金属水素の海で構成される。  
 大気: 強烈な縞模様・大赤斑(直径地球  
 2~3個分の巨大嵐が数百年以上続く)

既知の衛星数: 95個以上  
 イオ: 最も火山活動が激しい  
 エウロパ: 氷殻の下に液体の海  
 ガニメデ: 太陽系最大の衛星  
 カリスト: 古いクレーターだらけ

木星と土星は、約20年に一度コンジャンクション(会合)する。

これが20回くり返す400年で世界の権威が大きく変化するとされている

## 土星(Saturn) 「文明の収縮と規律を体現する星」

土星はローマ神話のサートゥルヌス(Saturnus)に由来する。

ギリシャ神話ではクロノス(Cronos)に相当する。

象徴する概念：時間、古い・限界・制限、物質的秩序・境界線、

国家・法律・社会構造の基盤。

木星が「拡大・繁栄」を象徴するのに対し、土星はその反対側に立つ「収縮・規律」を体現する星である。

クロノスは時間と運命の神であり、同時に「恐れ」によって子どもを飲み込む残酷な父として描かれる。これは“時間がすべてを呑み込み、形あるものは必ず衰える”という哲学的寓意と一致する。

一方、ローマではサートゥルヌスは「豊穡の神」としても崇拜された。

農耕、豊作、社会の安定、黄金時代の記憶。これらは実際の土星の“輪”の豊かさ  
と美しさにも通じる。

既知の衛星数：274個以上(タイタン以外は小さい)

タイタン：太陽系で2番目の大きさ。唯一濃い大気を持つ。メタンの海。

エンケラドゥス：南極から水蒸気のジェット噴出。海と生命の存在可能性

レア：氷の世界。リングが存在する可能性

ミマス：巨大クレーターで有名

### ■ 基本データ(天文学的情報)

分類：ガス巨大惑星(Gas Giant)

半径：約58,232 km(地球の約**9.1**倍)

質量：地球の約**95**倍

体積：地球の約**763**倍

平均密度：0.687 g/cm<sup>3</sup>

(太陽系で最も軽い。水に浮く理論値)

主成分：水素(約96%)、ヘリウム(約3%)、

微量のメタン・アンモニア

自転周期：約**10時間33分**

公転周期：**29.46**年

公転軌道長半径：約**9.5** AU

(地球の9.5倍、約14億 km)

最大等級(接近時の明るさ)：約0.4~0.7等

(リングが見えると異様な存在感)

内部の最大圧力：数百万気圧

(木星より小さいが依然極端)

陸地：なし。深い大気と液体金属水素層で構成される。

### リングシステム(環)

土星といえば、何よりも“リング”である。

この輪は、太陽系で最も美しく、また最も大規模で複雑な構造を持つ。

#### ● 基本構造

直径：約28万 km以上(地球の約22倍)

厚さ：わずか数十メートル~数百メートル

主成分：氷の粒・岩石の破片(数cm~数m)

A~Gまで8つのリングに分類される

数千万年~数億年で散逸してしまうとされる、儚い存在である。



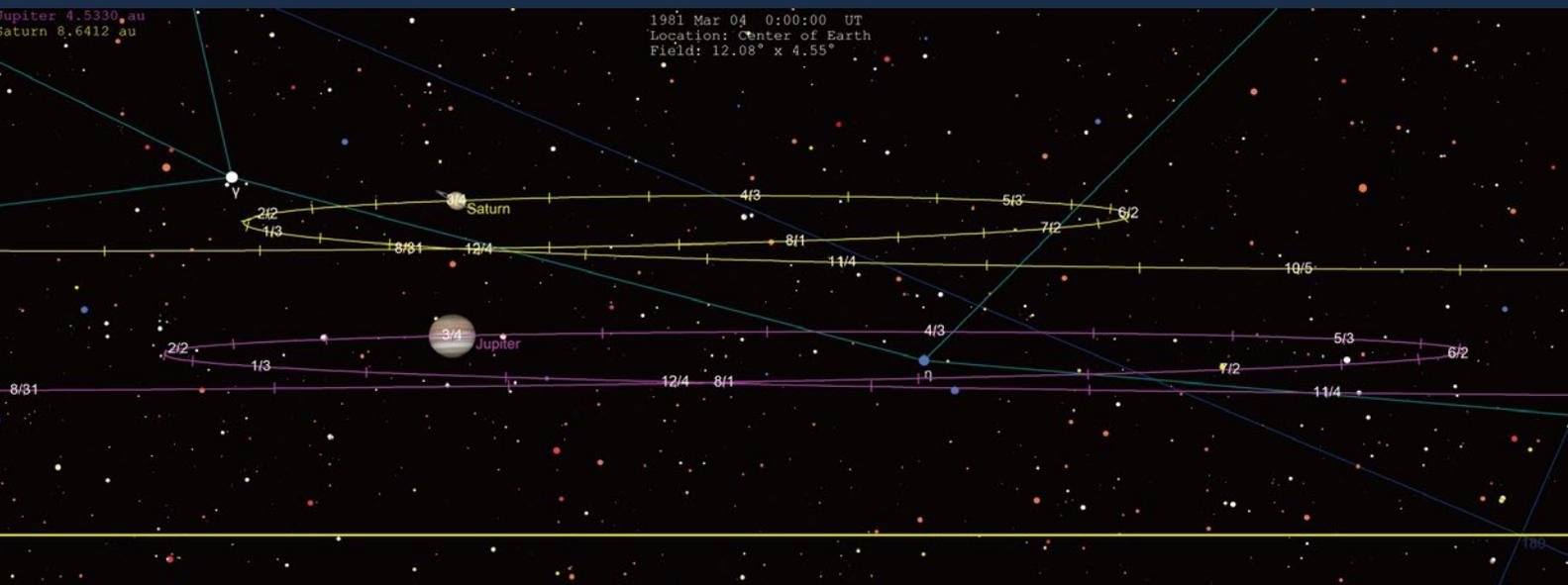
# Great Conjunction

宇宙と文明

木星と土星の演舞

## 特別なグレコン 1

トリプル・グレートコンジャンクションって何？



1980年に起きたトリプル・グレコンの地球からの木星と土星の見かけの位置の変化

通常のグレートコンジャンクション(木星と土星の会合=グレコン)は約20年ごとに一度だけ起きる。しかし、歴史の中でまれに、この会合が“3回連続で”起きる特別な年が存在する。これがトリプル・コンジャンクション(三重会合)と呼ばれる現象で、古代においては“世界の転換を示す天の徴(しるし)”と

見なされた。その象徴性の頂点が、紀元前7年の木星と土星の三重会合(トリプル・グレコン)である。多くの歴史家は、これこそがイエス・キリスト誕生の「ベツレヘムの星」説の有力候補だと考えている。そして、1000年数回程度しか起きないトリプル・グレコンが、20世紀に2回連続で起きている点も見逃せない。

## なぜ「三重」になるのか？

逆行運動が生み出す天空の錯視

木星と土星はともに外惑星であるため、地球の軌道に対して見かけの逆行(retrograde)を起こす。その結果、天空上で次のような現象が起こる:

- 1: 順行で接近し、合(会合)を形成する
- 2: 地球が追い越し、木星・土星が「逆行」するようになる
- 3: 逆行中に再び接近し、2回目の合が起きる
- 4: 再び順行に戻る過程で、もう一度接近
- 5: 3回目の合が起きる

つまり、地球の内側の速い軌道が作り出す“視覚上の往復運動”が、同じ2惑星の会合を短期間に三度も繰り返すのである。

## 歴代のトリプル・グレコン

-7	5/28, 9/29, 12/4	キリスト誕生
1305-6	12/24, 4/20, 7/29	百年戦争
1425	2/10, 3/10, 7/8/24	東ローマ帝国滅亡へ
1682-3	10/23, 2/8, 5/17	第二次百年戦争
1940-1	8/6, 10/21, 2/14	第二次世界大戦
1981	1/1, 3/6, 7/25	コンピューター革命
次回		
2238	9/6, 1/12, 3/22	

# 特別なグレコン 2

## スーパー・グレートコンジャンクションって何？

ふつうのグレコンでは、見かけの離角はだいたい0.5~1.3度(30~78分角)が標準的なレンジです。ところが2020年は6.1分角という“超接近”になり、特別扱いされる「超グレコン」の一つになりました。

距離が毎回変わる主な理由は3つです。

### (1) 木星と土星の軌道面が少しズレている

木星軌道の傾き:約 1.3° 土星軌道の傾き:約 2.5°  
2つの惑星は、ほぼ同じ“黄道面”上を回ってはいますが、完全に同じ平面ではない。「2つの公転軌道が交差して見える黄経(≒137°と≒317°付近)」近くで会合が起きると、2つの軌道面のズレが最小になり、見かけの距離もグッと縮む——これが超グレコンの条件です。

### (2) 楕円軌道&地球側の視点のゆらぎ

木星も土星も楕円軌道なので、太陽からの距離が一定ではない地球自身も楕円軌道で動いている。そのため、「3つの惑星の並び方」が微妙に変わり、同じ黄経で会合しても、地球から見た投影の角度が毎回違う。これが「ちょっと離れたグレコン」から「ほぼ重なって見える超グレコン」までのパリエーションを生みます。

### (3) 見かけの距離=経度差だけでなく“緯度差”も効く

天文学的には、見かけの距離は経度差と緯度差を合わせた“2次元距離”なので、同じ黄経で「合」になっていても、黄緯(軌道面からの“上下”のずれ)が大きいと、グレコンでもけっこう離れて見える ことになります。

## なぜ約400年おきに出てくるのか？

有名なのが、1226年 → 1623年 → 2020年 という“ほぼ400年ごとの超接近”の並びです。実際の差は1226 → 1623:約397年 1623 → 2020:約397年この周期性のカギは、2つあります。

### (A) 19.859年という「グレコン基本周期」

木星・土星の会合周期(シノディック周期)は約19.859年です。これを20倍すると:  $19.859 \times 20 \approx 397.2$  年つまり、20回目のグレコンは「約400年後に、ほぼ同じ並び方」で再現される ということになります。ここでいう「同じ並び方」とは、太陽から見た黄経、地球の公転位置がかなり似た配置になる、という意味です。

### (B) ケプラーの「トライゴン」と、そのゆっくりした回転

連続するグレコンは、黄道上でだいたい120°ずつずれて出現します。そのため、3つの連続グレコンを結び、正三角形のような「トライゴン」が描かれる——これがケプラーの有名な図式です。

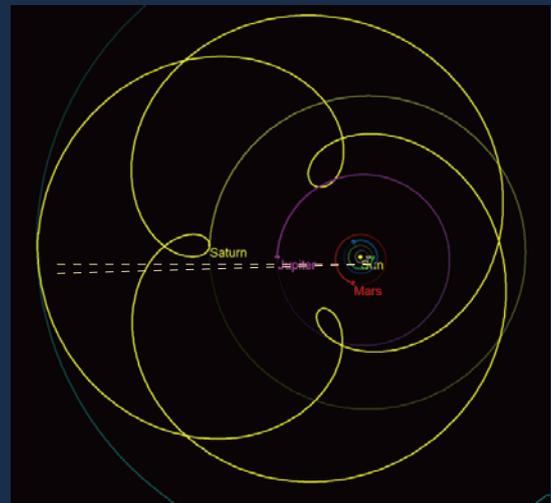
この三角形そのものが、長い時間スローモーションで回転していて、「400年で60°回転する」→ そのタイミングで、トライゴンの一角が“軌道面の交点(ノード付近)”に近づくこととされています。そうすると、そのトライゴンの頂点で起こるグレコンが軌道面の交差点の近くかつ



## 歴代の超グレコン

-1793	1.3分	ハンムラビ法典
-424	1.5分	プラトン誕生
372	1.9分	カトリック爆誕
709 3重	8.3分	イスラム帝国絶頂
1226	2.1分	ルネサンス爆誕
1623	5.2分	プロテスタント、左傾化?
2020	6.1分	パンデミック、右傾化?

2020年の超グレコン時に地球から撮影した実際の写真



木星に対する土星の位置。800年で元の位置に戻る



ケプラーのトライゴン(1606年著)

グレコンは毎回約120°逆行し、60年ごとに元の位置に戻る。その際約8°ずつシフトしていく。ケプラーは、軸の歳差運動を考慮し元に戻るのにグレコン40回分、794年を要することを突き止めた。

“20回目のグレコン”で配置が似ているというダブル条件を満たし、1226 → 1623 → 2020 のような397年周期で「超」グレコンが生まれる、というわけです。

# Great Conjunction

宇宙と文明

木星と土星の演舞



## 世界史の“断層線”は必ずトリプルの時に現れる

トリプル・グレコンが投げかけるのは、「文明の死と再誕」

- -7年:世界宗教の開祖キリストの誕生  
→ ユダヤの片隅に生まれた思想がやがてローマ帝国の精神世界を覆い尽くすことになる。
- 1305年:中世秩序崩壊の序曲  
→ 英仏対立は、ヨーロッパの封建秩序を根本から破壊する。
- 1425年:東ローマ帝国の終末  
→ 皇帝ヨハネス8世の死、帝国滅亡の“開始ベル”。
- 1682年:大英帝国とブルボン王朝の宿命的闘争  
→ ここから近代ヨーロッパ史の中心が「英仏戦争」になる。
- 1940年:人類史最大の破壊—第二次世界大戦  
→ 都市、国家、文明のインフラが世界規模で崩壊。そして戦後復興が、人類史最大の人口増を生み出した。
- 1981年:人類意識を作り変える機械の誕生  
→ IBM PC発売。デジタル“第二の産業革命”の開幕。

## 一方、超グレコンは「権威の終わり」を告げる

トリプルが破壊と再生なら、超グレコン(数分角級の超接近)は“時代の権威の死”を意味する。

- 紀元前424年(1.5分) ソクラテス・プラトンが誕生  
→ 古代の神話構造が終わり、理性と対話の時代へ
- 372年(1.9分) ローマ皇帝権威の終焉  
→ カトリック教会という新たな権威へ移行
- 1226年(2.1分) 教皇権威の揺らぎ、ルネサンス

→ 中世の世界観が崩壊

- 1623年(5.2分)三十年戦争でプロテスタントが優勢に  
→ 教会権威の事実上の終焉、近代国家と資本主義の誕生
  - 2020年(6.1分)パンデミックで大学・議会・メディアの権威が崩れ、AIが新たな知的権威として台頭  
→ リベラル世界の終焉とAI文明の胎動
- 超グレコンは、“旧文明の前提となっていた権威が失効する”瞬間なのである。

## 都市が壊れるのは「権威の崩壊」後である

権威が崩れたとき、その時代に築かれたインフラは自己矛盾を抱えて崩壊を始める。ローマ帝国では、皇帝権威が失われ、税制が機能不全となり、軍事・道路・水道などの中枢インフラが維持できず、首都ローマという超集中都市が一撃で機能停止した。極集中型文明は、“権威の終わり”と共に自壊しやすい。

## 東京—ローマ末期の亡霊が巨大都市を蝕む

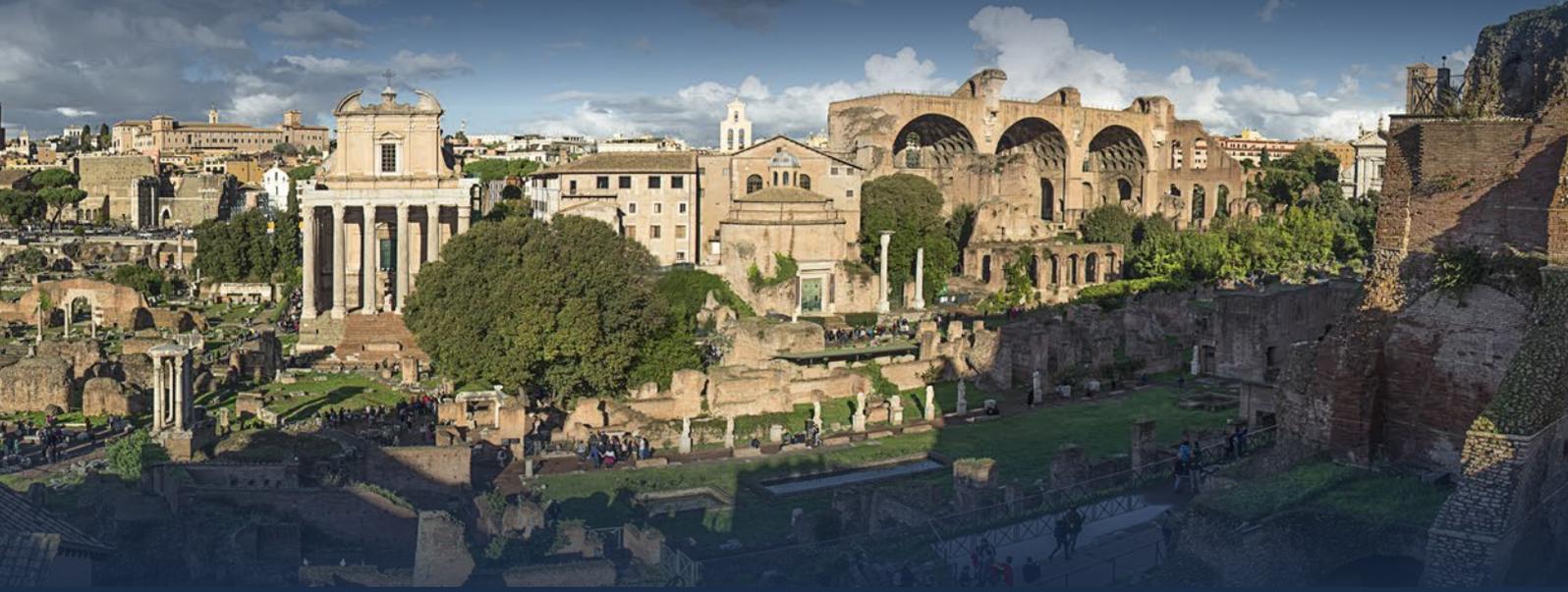
世界最大級の都市・東京。

3800万人を抱えるこの巨大都市は、今もなお富と情報が集中し、世界で最も安全で洗練され、効率的な街と称賛されている。だが、この輝きの裏側には、ローマ末期と酷似した危うさが潜んでいる。文明は、栄光の絶頂期にこそ崩壊の種を孕む。

### ■ 1. 権威なき首都

古代ローマの崩壊を加速させたのは、外敵の侵入よりも権威の空白だった。皇帝の正統性が弱まり国家のビジョンは不明瞭になり、誰が未来を導くのが曖昧になった。

# 超グレコンは、都市崩壊の預言



現代の東京もまた、まさに同じ症状を呈している。国家・政治・市場のいずれも、明確な指導的権威が見えない。この都市を守る主体が誰なのか、誰が責任を負うのか——その輪郭は驚くほど曖昧である。

## ■ 2. 軍事的無防備という前提の罨

東京は「戦争が起きない」という前提の上に成立している。しかし、この前提はローマ末期も共有していた。現在の東京は、防衛線がほぼ皆無。インフラは平時前提で設計、住民は“安全神話”を当然視し、多くの重要機能が同じ平野部に一点集中という、極めて脆弱な構造を持つ。この脆弱性は、武力すら不要だ。

## ■ 3. 一撃で崩壊する流通システム

東京最大の弱点は、軍事力ではない。インフラ一箇所の停止だ。たとえば、ガソリン供給ラインの遮断、インターネット接続の寸断、主要交通網の封鎖、これらはいずれも軍事行為ではない。だが、たった一つ実行されるだけで、首都圏3000万人の生活は即座に麻痺する。都市に蓄えられた食料は、わずか数日。流通が止まれば、巨大都市は「飢餓を待ただけの袋小路」と化す。ローマ帝国もまた、道路・税制・軍事ネットワークが止まった途端に、世界最大の帝国首都であるがゆえに脆く崩れ落ちた。

## ■ 4. 都市集中が招く破滅の一点突破

地方分散型文明は、破壊に強い。一部がダメージを受けても、他地域が補完し合えるためだ。しかし東京は真逆だ。交通、情報、経済、医療、物流。これらすべてが同じ都市圏に詰め込まれている。だから、一点が破壊されれば、すべてが連鎖し

て崩れる。

ローマが一度「中心の破壊」を経験すると、都市機能は二度と戻らなかった。首都は瞬時に過疎化し、かつての栄光は廃墟の観光地へと変わっていった。

## ■ 5. 一度始まった都市離れは止まらない

人口流出 → 不動産バブル崩壊 → 都市の廃墟化  
都市の魅力は「人が集まること」そのものだ。逆に言えば、少しでも人口が逃げ始めると、加速度的に崩壊が進む。空き家・空きビルが増加、不動産価格の下落、税収の減少、社会インフラ維持が不可能に、再整備のコストは誰も払えない。そして都市は“空洞”になる。

ローマのコロッセオは、かつての巨大帝国の象徴だった。しかし中世には、建材を採掘するための「石切場」に成り下がった。東京の超高層ビル群も、未来の世代にとっては単なる「資源採掘場」になりかねない。

## ■ 6. 東京の“最有力シナリオ”

一都市文明の限界が、ついに露呈する  
首都圏は今、「人口集中」「インフラの老朽化」「権威の空白」という三つの危険信号を同時に抱えている。このまま人口が都市に密集し、地方が空洞化し続ければ、東京破綻のリスクは指数関数的に上昇する。破壊は戦争の形を取らない。もっと静かで、もっと簡単で、もっと残酷な形でやって来る。その未来は、決して空想ではない。ローマが示した文明の死に方は、今も東京の足元で繰り返されようとしている。

## フランス ナポレオン・ボナパルト

18世紀末、フランス革命の混乱を終息へ導き、ヨーロッパ史を一変させた男こそナポレオン・ボナパルト(1769-1821)である。コルシカ島出身の一青年士官は革命戦争で頭角を現し、1799年のブリュメールのクーデターで事実上の支配者となる。そして1804年、自ら皇帝ナポレオン1世として戴冠。フランスは王政に代わる「帝政」という新しい秩序のもとで統一された。しかしナポレオンの偉業は、単なる軍事的征服に留まらない。彼は法・行政・教育・宗教、そして経済制度に至るまで徹底した近代化を推進し、近代国家の骨格を築いた。その中でも特に重要なのが、貨幣制度の改革である。革命期のフランスでは紙幣アシニャが乱発され、ハイパーインフレが発生した。信頼を失った通貨を再生させることが、国家の安定に不可欠だったのである。ナポレオンは1803年、「フラン・ジェルマン(Franc Germinal)法」を制定。1フランを金4.5g・銀5gで統一し、純度・重量を厳格に規定した。この制度は以後、約100年にわたってヨーロッパ各国の通貨制度の模範となり、後の「ラテン通貨同盟」へと発展していく。すなわち、ナポレオンの貨幣改革は単に国内経済を安定させただけでなく、ヨーロッパ統一通貨構想の先駆けでもあったのである。

貨幣デザインもまた、彼の政治思想を映す重要な媒体だった。共和国の理念を継承しつつ、自身をローマ皇帝の再来として演出したナポレオンは、コインの肖像に古代風の月桂冠を採用した。これは勝利と栄光を象徴であり、神に代わり秩序をもたらす英雄としての自己像を視覚的に定着させるものだった。

彼の治世に鑄造された貨幣は、単なる通貨を超えた国家のシンボルであったと言える。新通貨フランは安定の証として民衆の信頼を集め、国際貿易の基軸通貨としてヨーロッパ全土に流通したのである。ナポレオンの征服が広がるにつれ、彼の肖像を刻んだ金貨はイタリア、オランダ、スイス、さらにはライン連邦諸国へと波及し、金貨による帝国の統一を体現していった。

その中でも特別な存在が、次項にて紹介している1807年にパリで鑄造された5フラン金打試作である。通常は銀貨として発行された物を、皇帝の威信を示すために金で試鑄したこのコインは、わずか38枚しか存在しない。

側面に刻まれた「DIEU PROTÈGE LA FRANCE(神よ、フランスを護り給え)」という銘文は、皇帝が自らを神の摂理に導かれる存在と位置づけた証でもあり、宗教と国家を一体化した帝政イデオロギーの象徴といえる。

貨幣を通じたナポレオンの統治は、武力による支配よりもはるかに長い影響を残した。彼の制定したフランは1815年の没落後も存続し、第三共和政期に至っても基軸通貨としての信頼を保ち続けた。今日、ユーロに刻まれた統一の理念の根底にも、この「秩序ある金属通貨」の哲学が息づいている。

ナポレオンが残した最大の遺産は戦場の勝利だけではなく、信頼できる通貨をもって国家を築くという思想であった。それは貨幣が単なる経済の道具ではなく、国家の理念と統治の象徴であることを世界に示した歴史的実験であり、彼の名を冠した金貨は今なお、理性と権威の輝きを放ち続けている。



# フランス 1807年A ナポレオン・ボナパルト 5フラン パターン金貨 SP61



発行枚数：**38枚** サイズ：**38.00mm/42.30g** 希少性：**★★★★★**  
ご案内価格(税込)：**43,800,000円**

表面：月桂冠を戴くナポレオン 1世の右向き胸像。

NAPOLEON EMPEREUR (皇帝たるナポレオン)

ローマ皇帝の理想像を重ねた意匠は、皇帝として戴冠後の権威と威厳を表現。

胸像下には刻印「G」=彫刻主任ジャン=ピエール・ジロ (Jean-Pierre Gengembre) の頭文字。

裏面：中央に額面 5 FRANCS (5フラン)、周囲に月桂冠、上部に

REPUBLIQUE FRANÇAISE (フランス共和国)

帝政期でありながら「共和国」を残すこの構図は、革命の理念を形式上尊重しつつ、

ナポレオンの統治を正統化する政治的デザイン。下部には製造年「1807」とパリ造幣局を示す「A」。

試作特有の高精度な打刻と深い鏡面仕上げが特徴。

## Buyer's Comment

本品は、1807年にパリ造幣局でわずか 38枚のみ試作製造された「威信鑄造」である。

通常は銀で流通した 5フラン貨を金で打つという、極めて異例の試みであり、国家の繁栄と皇帝の権威を象徴する目的で制作されたと考えられる。重量 42.30gの堂々たる重量と、側面に刻まれた「DIEU PROTÈGE LA FRANCE (神よフランスを護り給え)」の銘文が、帝政フランスの宗教的正統性を主張している。発行数は 38枚であるが、現在確認される個体は 10枚未満である。

ナポレオンが 1807年に打たせた金製 5フラン試作貨の側面には、DIEU PROTÈGE LA FRANCE (神よフランスを護り給え) という言葉が刻まれている。これは単なる装飾ではなく、皇帝ナポレオン・ボナパルトが自らの統治を神の摂理の下にある秩序として正当化するための明確なメッセージだった。革命によって宗教が否定され、無神論が広まったフランスにおいて、ナポレオンは国家と教会の再接近を図り、信仰と権力を融合させる新たな理念を築こうとしたのである。

一方、通常の 5フラン銀貨には宗教的要素はなく、共和国の理念を象徴するフランス共和国の銘が刻まれていた。つまり、銀貨が「市民の通貨」であったのに対し、金貨は神に選ばれた国家の象徴であり、皇帝の権威を神聖化するための儀礼的貨幣だったといえる。



# 古代マケドニア王国 336-323BC アレキサンダー大王 2スターテル金貨 XF Strike: 5/5 Surface: 4/5



発行枚数: 不明 サイズ: **22.00mm/17.16g** 希少性: ★★★★★  
ご案内価格(税込): **7,670,000円**

表面: 戦術の女神アテナ(アレキサンダー本人に似せて描かれたと推測)

裏面: 勝利の女神ニケが翼を広げて立ち、月桂冠と左手に帆柱を持つ。

ΑΛΕΞΑΝΔΡΟΥ(アレクサンドロスの貨幣)

## Buyer's Comment

こちらの2スターテル金貨(Distaterとも)は、アレキサンダー大王が発行した金貨体系の中でも最上位に位置する貨幣であり、通常のスターテル(Stater)の約2倍の重量(約17g)を誇る。価値にして当時のテトラドラクマ銀貨10枚分に相当し、王や將軍、同盟都市への恩賞・外交贈呈用としてのみ用いられた特権階級の貨幣であった。一方で1スターテル(約8.5g)は兵士の俸給や商取引にも流通し、帝国経済の実質的基軸を担っていた。ディスターテルはその比類なき威信を象徴する金貨であり、アテナとニケという神格的存在が刻まれることで、知略と勝利の永遠性を表現している。次項では、より広く流通した1スターテル9枚をご案内。帝国全域へ浸透し、後世の王朝貨幣にまで影響を与えたかを金貨である。

## 戦術の女神アテナ



絶対神ゼウスと知恵の女神メティスの子。

アテナを妊娠したメティスを丸ごと飲み込んだゼウスの頭から防具を装着した状態で生まれた。アテナは戦術の女神ではあるが、敵を侵略する事ではなく防衛を得意としていた。古代世界においては存命の人物を貨幣に描く事はご法度であった為、崇拝の対象であった女神をスターテル金貨に刻印していた。

ルーブル美術館に貯蔵されている

「サモトラケのニケ」として有名な勝利の女神が裏面に

刻印されている。

彼女はスポーツブランド「NIKE」の語源にもなっている。



勝利の女神ニケ

# アレキサンダー大王 1スターテル金貨

発行枚数：不明 サイズ：**18.00mm/8.50g** 前後 希少性：★★☆

アレキサンダー大王 1スターテル金貨は、古代ギリシャで最も有名な金貨のひとつ。

重量約 8.6gで鑄造され、テトラドラクマ銀貨 5枚分に相当。

表には知恵と戦略の女神アテナ、裏には勝利の女神ニケが刻まれ、戦略と栄光の両立を象徴する。

その威信は大王の死後も続き、地中海から中東、アジアに至る広大な地域で流通した。国境を超えて信用された

この金貨は、まさに「古代の国際通貨」と呼ぶにふさわしい存在であり、アレキサンダー帝国の統一と経済の力を今に伝えている。

**12/17(水)**  
**一斉販売!**  
 オンラインショップにて  
 ユニバーサルコイン   
**21:00~**

**A**



**AU Strike: 5/5**  
**Surface: 4/5**

価格(税込)：**1,920,000円**

**B**



**AU Strike: 5/5**  
**Surface: 2/5**

価格(税込)：**1,280,000円**

**C**



**XF Strike: 4/5**  
**Surface: 4/5**

価格(税込)：**1,230,000円**

**D**



**Ch VF Strike: 5/5**  
**Surface: 4/5**

価格(税込)：**1,530,000円**

**E**



**Ch VF Strike: 5/5**  
**Surface: 4/5**

価格(税込)：**1,410,000円**

**F**



**Ch VF Strike: 5/5**  
**Surface: 4/5**

価格(税込)：**1,230,000円**

**G**



**VF Strike: 5/5**  
**Surface: 3/5**

価格(税込)：**1,020,000円**

**H**



**Ch F Strike: 5/5**  
**Surface: 4/5**

価格(税込)：**1,020,000円**

**I**



**Ch F Strike: 5/5**  
**Surface: 4/5**

価格(税込)：**1,020,000円**

## 地金系コインとは？

アンティークコインは歴史的背景や希少性、美術的価値によって評価される。  
地金型コインはメイプルリーフ金貨やハーモニー金貨の総称であり、  
金そのものの相場価値を基準に価格が決まる投資用金貨である。  
これらは大量発行され、発行枚数やデザインの限定性といった要素がなく、  
希少性によるプレミアはほとんど存在しない。

これに対し、今回ご紹介するのは「地金系コイン」。これは純度・重量といった地金としての基準を満たしながらも、限定発行・高い芸術性・歴史的意義を兼ね備えた「ハイブリッド型金貨」だ。  
金としての安定した資産価値に加え、収集品としての魅力や将来的な希少性も見込める点が大きな特徴である。

ユニバーサルコインでは、こうした地金系コインを12月17日より開催のオンラインセールで特別価格にてご案内。純粋な資産価値とコインアートとしての美しさを併せ持つ逸品を、この機会にぜひ手に取っていただきたい。

\*参考金価格は2025年11月12日現在\*

12/17(水)  
一斉販売!  
オンラインショップにて  
ユニバーサルコイン 🔍  
21:00~

### イギリス 2021年 ブリタニア 200ポンド 2oz 金貨 PF70UCAM

A



発行枚数: **230**枚 サイズ: **40.00mm/62.42g** 金純度: **99.99%**  
ご案内価格(税込): **2,280,000**円 (参考金価格: 1,401,553円)

**B**

オーストラリア 2008年  
Year Of The Mouse 100ドル  
1oz 金貨 リバースプルーフ 裸  
金価格:700,776円

価格(税込) : **890,000円**

**C**

オーストラリア 2012年  
Year Of The Dragon  
100ドル 2oz 金貨 裸  
金価格:1,401,553円

価格(税込) : **1,890,000円**

**D**

イギリス 2020年  
メイフラワー号出向400周年記念  
100ポンド 1oz 金貨 PF69UCAM  
金価格:700,776円

価格(税込) : **980,000円**

**E**

マン島 1994年  
ノーブル 1oz 金貨  
PF69UCAM  
金価格:700,776円

価格(税込) : **980,000円**

**F**

マン島 1990年  
ペニーブラック発行150周年記念  
1クラウン 1oz 金貨 裸  
金価格:700,776円

価格(税込) : **980,000円**

**G**

マン島 1997年  
キャットシリーズ 1oz金貨 裸  
長毛のスモークキャット  
金価格:700,776円

価格(税込) : **950,000円**

**H**

イギリス 2022年  
ヘンリー7世 100ポンド  
1oz 金貨 PF70UCAM  
金価格:700,776円

価格(税込) : **1,150,000円**

**I**

イギリス 2022年  
ジョージ1世 100ポンド  
1oz 金貨 PF70UCAM  
金価格:700,776円

価格(税込) : **1,150,000円**

**J**

イギリス領  
トリスタンダクーニャ 2000年  
エリザベス皇太后 生誕100周年記念  
50ペンス金貨 PF69UCAM  
金価格:967,650円

価格(税込) : **1,230,000円**

# Buyer's eye

## 地金でアンティークコインを買う!? という新しい選択肢

text & Photo by Yuto Murata

ユニバーサルコインでは、これまで多くのお客様にアンティークコインの魅力をお伝えしてまいりました。「歴史を手にするような喜び」と「美しい芸術作品を資産として持つ安心感」。その両方を兼ね備えたコインコレクションは、近年ますます注目を集めています。

そして今、私たちは新しい形の資産循環をご提案いたします。それが、「地金でアンティークコイン・地金系コインを購入できる」サービスです。

金やプラチナなどの地金（バーやメープルリーフ等の地金型コイン）をお持ちのお客様から一度当社が買取を行い、その金額をそのままアンティークコインや地金系コインの購入代金に充当していただける仕組みです。

過去に購入された金地金を「資産を形のあるものに変えたい」「趣味としても楽しめる資産を持ちたい」とお考えの際に、非常に有効な方法です。

単なる換金ではなく、金という資産をより価値の高い形へと昇華させる。ユニバーサルコインならではの、次世代型の資産活用です。

この地金買取サービスは、実はまだ開始から間もない新しい取り組みです。しかしながら、すでに非常に多くのお問

い合わせをいただいております。

地金買取は、金価格が高騰する今だからこそ注目されている手法です。特に金相場が高騰しているこのタイミングに、アンティークコインや地金系コインへの乗り換えをされるお客様が急増しています。

地金系コインへの注目も急上昇中

今回特集している地金系コインは、まさにこの流れを象徴する存在です。金の純度、重量といった地金としての価値を基盤にしながらも、限定発行・美しい意匠・歴史的背景といった要素を併せ持つハイブリッド型の金貨。つまり、地金のように価値が安定し、アンティークのように心を満たす。この二つの魅力を兼ね備えた資産が、今まさに世界中で注目を浴びています。

12月17日からは、オンラインショップにて「地金系コイン特別セール」も開催。

資産性・芸術性の両立を求める方にとって、絶好の機会となるでしょう。

従来、地金を売却するという行為は、資産の「終わり」を意味していました。しかしユニバーサルコインの新サービスは、そこから始まる資産の再構築を目的としています。

金という揺るぎない価値を、一歩先の楽しみと可能性へ。コインは、単なる投資対象ではなく、文化と美術をまとった資産です。

現物資産としての安心感を保ちながら、より高い満足度と将来的なリターンを目指す。それが、地金買取から始まる「コインによる資産再構築」の最大の魅力です。

## UNIVERSAL COIN

セールス / バイヤー

### 村田悠和

1983年東京都生まれ。

高級腕時計バイヤーを経て、2016年ユニバーサルコイン入社。

セールスとして全国を飛び回り、バイヤーとしてニューヨーク、ロンドン、ベルリンなどのオークションに参加。2017～2018年は香港支店支店長を務めた。



一番買取の需要が多い  
1kg、500g、200gのバー  
で一体どんなコインが買え  
るのか?  
こちらで有名なコインをご  
紹介。



イギリス 2019年 ウナとライオン 5oz金貨(1,800万円~2,000万円)

## 1kg地金で買えるコイン



ドイツ 1640年 バイエルン選帝侯マキシミアン1世 5ダカット金貨(約1,500万円)

## 500g地金で買えるコイン



イギリス 1806年 ジョージ3世 1/4ペニー パターン金貨(約700万円)

## 200g地金で買えるコイン



イギリス 1768年 ジョージ3世 ケンブリッジ大学学長賞 金メダル(約430万円)



# Economy & Investment

## 本気で危険！本年度3%のインフレは来年以降10%以上に爆上がりする!?

text by Naoki Nishimura

「金」の価格動向は、物価のセンサー・シグナルだと言われることがあります。

これから起こる大きなインフレを予測して(機関)投資家心理によって、実市場よりも先行して金の買いが起き、金価格の上昇が先行して起きるといふ訳です。

過去の事例を見ると、金価格の後に実体物価が上がった時と、そうはならなかった時がありますが、地金・希少コインを扱う私達からすると、この事を直近で非常に実感しています。

仮に1000万円のコインの売買を金での購入を想定したとします。

2024年初頭(9600円/g) → 1Kg+40万円の現金相当で1000万円のコインが購入可能でした

2025年11月(22000円/g) → 500g-100万円のおつりで1000万円のコインが購入可能

たかが2年弱で2倍にもなった金価格によって、コインを売



表1

期間	金価格の動き	その後のCPIインフレ	ラグ目安
1971-1974 (ブレトンウッズ崩壊 ～第1次オイルショック)	金が約35→~180ドルへ大幅上昇	CPIが1974年に2桁へ (~12%台)	~1-2年 (金が先行) (マクロトレンド)
1976-1980 (第2次オイルショック ～ポルカー体制直前)	金が100→850ドルへ高騰 (1980/1)	CPIが1980年にピーク (~14%)	ほぼ同時～数四半期 (後半は同時進行) (Investopedia)
2019-2020 (パンデミック初期・金融緩和)	金が1,280→2,067ドル (2020/8) で最高値更新	CPIが2021-22に急加速 (2022/6に9.1%)	~12-24か月 (金が先、CPIが後) (マクロトレンド)
反例：2001-2011 (コモディティ・ブーム)	金が~270→1,900ドルへ長期上昇	CPIは概ね2-4%台で安定、高インフレ化せず	先行関係は弱い (構造的 disinflation 期) (マクロトレンド)

買する際に1000万円という法定通貨による物差しの基準がおかしくなっている訳です。

2024年初頭に1000万円相当であったコインの価値は、ゴールド建てで考えれば1Kg相当=2200万円の価値になっているはずなのです。

とは言え、そこまで極端にはなっていないものの、金を保有している人々にとってみると、コインだけではなく、全てのモノがバーゲン SALEのような状態になっているわけです。

とは言え、上がり続ける事を分かっている金保有者達は全てのモノを金で購入=金を売却するようなこともしない事から、いわゆるこの感覚の“調整”が入り、モノの値段が決まっていくこととなります。“調整”とは要はインフレ調整です。

2024年初頭に1000万円だったコインを安いと感じ、1500万円相当までだったら良いか(金で支払えば2200万円相当だと理解しながら)と思う。実際に1500万円相当まで入札して落札される現象が起きる。そうすると法定通貨建てでいくと1000万円→1500万円となるので150%の価格上昇が起きた!と見ますが、GOLD建てで考えれば「いや～非常に安かった～」となっているわけです。こういった事が、今まさに始まっています。こういった“調整”が一般消費者の一般流通商品の価格に反映されてくるのには半年から一年以上かかってくるものも出てくると思いますが、着実にこうしたインフレでも安いと感じる人々による需要増によって更なるインフレが起きてくる事が価格上昇後に起きる大きなインフレです。

2024年の金価格上昇率=約130%

2025年の金価格上昇率=約150%

この2年で約2倍(200%)です。

物価は日本ではこの2年間で約105-106%程度です。まだ95%程度の上振れ余白があるわけです。。。極端にそこまでいかなかったとしても、20%、30%は“調整”によって上振れ余白を突き抜けていく可能性があると思いませんか!?

そこまでいかなかったとしても、年率10%程度のインフレは十分に考えられるわけです。

市場の感覚からすればインフレ率120%、130%です・・・今はたった103%です。

日本人の一般の感覚からすれば今年の103%のインフレは“めちゃくちゃ物価が上がった!”という印象だと思いま

すが、今年のインフレは始まりに過ぎないわけです。

このような経済情勢をみながら、最近よく思う事があります。

“いよいよ現物資産の強みが発揮されるときが来たなあ”と。

これから株式市場も暴落する可能性が強くなってきています。また実体経済もAIバブル崩壊によって失業者が増え景気は悪くなる可能性が大いにあります。にも関わらず物価だけは上がる・・・これ・・・そうです、「スタグフレーション化」するわけです。

経済現象の中でも最悪と言われるスタグフレーションです。リーマンショックの時もITバブル崩壊の時も、金融崩壊・実体経済の低迷・デフレです。今回は状況が異なる可能性が大にあるという事です。

これに気付いている人は、まだ少数だと思われます。大衆が気づいた時、金価格は最高値を付け、そこから暴落が始まります。※(暴落は金融市場の適正化にシフトチェンジするとき)これが金価格の中波のブレです。

金が安全資産!?

別称で記述した通り、金は、短中期の金価格予測を確実にしたうえでの資産形成と、希少コインは、中長期でこのスタグフレーション時に最大の期待効果を発揮する事を私達はよ～く知っているわけです。

800年周期を視野に入れておくと、いよいよ大変革が始まります。

金・希少コインと触れあうか、触れ合わないかで今後のご自身の資産形成は大きく異なると、断言しておきます。こうしたインフレ対策という初歩的な事から、財産没収、税金対策、相続対策m資産ポートフォリオの考え方、金・希少コインとの触れ合い方など、私西村とのご相談を承っております。

こちらから適時お申し込み頂ければ幸いです。 →



### 有料会員制度：kizuna (結束)

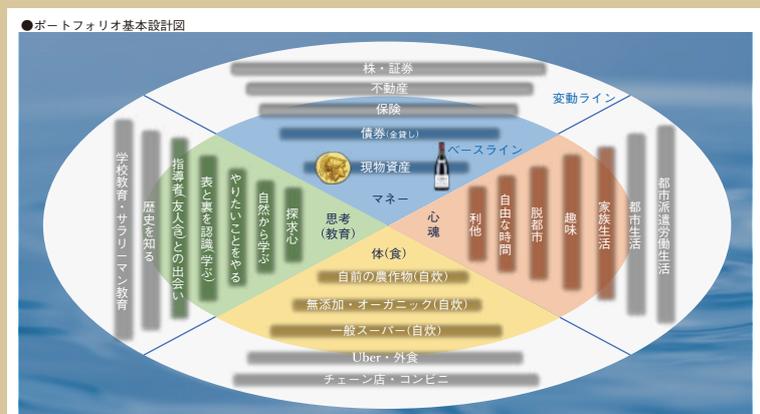
本会員制度は、以下のあるべきポートフォリオを意識した方々の集いでありその方々のkizuna(結束)を結ぶ組合です。



**【概要資料】**  
左のQRコードからkizuna(結束)会員制度の概要資料をダウンロードいただけます。



**【解説動画】**  
左のQRコードから制度についての動画をYouTubeにてご覧いただけます



約5年前から「波動を整える資産ポートフォリオ」として会員制度を設け、私達人民が豊かに生きる為のコミュニティとして稼働していましたが、パンデミックも去り、新たな時代へ社会環境も大きく変化したこと、会員制度自体の元々の趣旨と内容自体が少々ずれてきたこともあり、今回2025年1月1日からリスタートしております。

人民のより豊かな生活の実現の為に、皆で知恵を出し、協力し、あるべき姿の実現を個々、集合帯としてのいずれも、追及していきます。

具体的にはアイカフェファームでのイベント時などに集合したり、月一開催のオンラインセミナーなどで意見を交わしたりします。

この会員制度のゴール(目標)地点は、農村地域コミュニティです。

一次産業の農業がある村社会の実現であり、それは我々都市に住む人々が移住できる農村です。そしてあくまでも自然の中に人々が住まわせていただくという姿勢の元、自然の力を人間の技術で引き出してあげるというスタン

スで本質的に豊かな生活の実現を求めていきます。さらにこのコミュニティが日本全国に、世界に広がっていく事を想定しています。

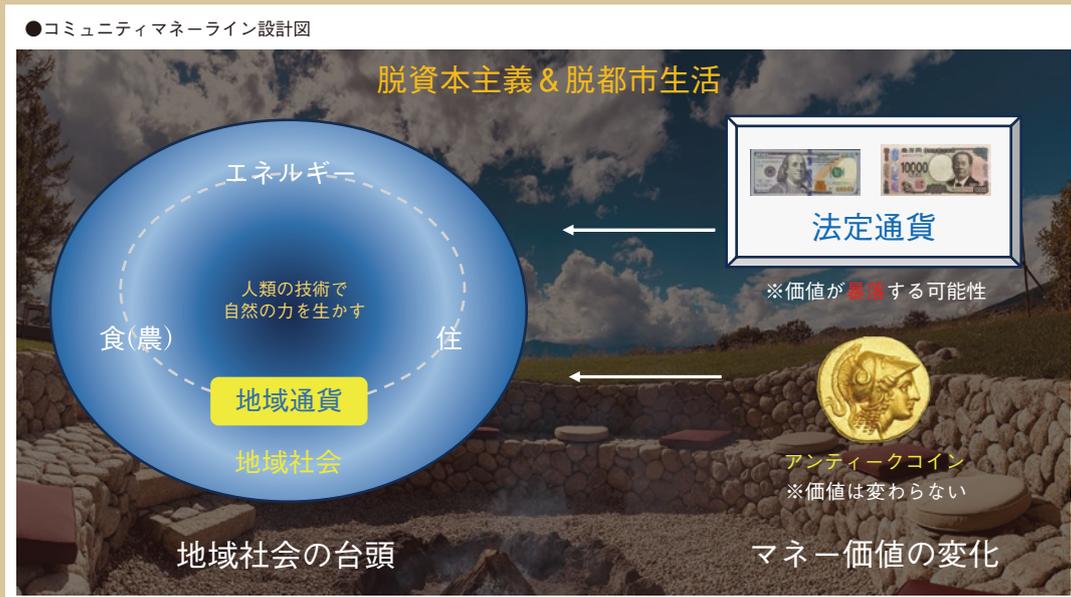
そしてその地域社会の中には地域通貨なるものを介在させ、そのシステムの安定化を図る為に絶対的安定性のあるアンティークコインを活用することを想定しています。

※確定ではありません。

また今回の会員の制度での大きな区分けとして、緊急時の避難先・備蓄を用意することを想定するGOLD以上と、平常時のご相談・セミナー参加が可能なそれ以外となります。またZは、お金は無いけど学びたい!という方向けです。

# nice Coin

## information



会員種別	X	Platinum	Gold	Silver	Bronze	Z
入会金(万円)	200	20	10	5	1	0
年会費(万円)	20	20	10	5	1	0
備考			1000万円運用の方		コインご購入者	学生・年収200万円未満
平常時	VIP野菜セット	●	●			
	備蓄	●	●	●		
	運用相談	●	●	●	●	●
	移住相談	●	●	●	●	
	セミナー	●	●	●	●	●
	施設割引	●	●	●	●	●
	農地保有	●	●	●	●	
緊急時	住居	●	○	△		
	食	●	●	●		
	風呂	●	●	●		
	アイカフェ使用权	●	●	●		



### 【新規お申込みページ】

一般YouTubeなどでは“あえて”制限を設けるような言い方をしておりますが、本質は皆様の温かい気持ちを日本の為に、そして結束したコミュニティの力にできるようという想いです。SNSの拡散機能＝アルゴリズムが大きく変わっている中で、より多くの皆様に情報が届くように“あえて”キャッチーなタイトルなどを付けておりますことをご理解とご了承頂けますと幸いです。

### ヒロ・フェラーリ 著 『リ・プラトン 国家』

プラトン×AI=未来の哲学。正義か、力か、答えは魂にある

大理石の柱が並ぶアクロポリスの丘を見上げるとき、人は二千四百年前のアテネの栄光を思う。パルテノン神殿に残る白い石は、ただ建築の美を伝えるだけではない。そこには人類文明が目覚めた最初の息吹が刻まれている。戦に強く、富に恵まれた都市国家の力の象徴でありながら、その背後にもっと深い輝きがあった。言葉を交わし、真実を求める声である。

その声の中心に立ったのがソクラテスだった。質素な衣をまとい、裕福でもなく、権力も持たぬ一人の市民。しかし彼の言葉は、アテネのどんな兵士の槍よりも鋭く、どんな神殿の柱よりも揺るぎなかった。彼は問いを投げかけた。正しさとは何か。幸福とは何か。人は何のために生きるのか。問いは答えを求めるだけでなく、人々の心の奥に眠る思考の火を灯した。ソクラテス自身は何ひとつ書き残さなかったが、その火は弟子たちによって未来へと運ばれた。だが、問いは時に人を不安にする。戦争に敗れ、混乱と不信が渦巻くアテネにおいて、ソクラテスの存在は危険と見なされた。若者を惑わせ、神々を冒瀆したと裁かれ、紀元前399年、彼は裁判の場で信念を曲げずに死を選んだ。毒杯を仰ぎ、静かに最期を迎えたその姿は、真理を求める者の運命を象徴していた。

この出来事は、弟子プラトンの魂を深く揺さぶった。師を救えなかった失望、民衆が正義を踏みにじった怒り。プラトンは個人の徳を問うだけでは不十分だと感じ、社会そのものの正義を追求する道へと踏み出した。こうして人類史に残る名著『国家』が生まれた。そこでは人間の魂と国家の秩序を重ね合わせ、真に善き社会とは何かが語られた。さらにプラトンは学びの場を築いた。アテネ郊外の森に設けた学園「アカデメイア」である。ここで若者たちは自由に学び、対話を重ねた。その場は後に「アカデミー」と呼ばれ、学問の共同体の始まりとなった。今日「アカデミズム」と呼ばれる精神の源流は、まさにこの小さな学園に遡ることができる。プラトンを師と仰ぎ、世界を征服したあのアレキサンダー大王の家庭教師であり、「万学の祖」と言われるアリストテレスもまた「アカデメイア」で30歳まで学び続けた一人だ。

ソクラテスが命をかけて残した問い、プラトンが制度に託

した探求。それはやがて時代を越えて広がっていった。古代ローマ末期には「ネオプラトニズム」として再解釈され、中世ヨーロッパではキリスト教神学の中に取り込まれ、信仰と理性の関係を深く考える基盤となった。ル

ネサンスの時代には、芸術と科学の新しい息吹とともに蘇り、宗教改革においては信仰と社会の在り方を揺さぶる力となった。

近代に入ると、プラトンの「理想国家」は自由主義の時代にそぐわぬものとして批判され、時に危険視された。民衆の自由を脅かす思想と見られたからである。しかし二十世紀に入ると、二度の大戦と全体主義の台頭を経て、人類は再び「正義とは何か」「社会はいかにあるべきか」という問いに直面した。消費と情報があふれる現代においても、答えなき問いは依然として私たちを取り囲んでいる。二十一世紀、AIが人間の知を凌駕し、地球規模の危機が人類を試す時代に、再びこの問いは甦る。正義とは何か。人は幸福に生きられるのか。国家や社会はどうあるべきか。答えはどこにも書かれてはいない。だからこそ、今を生きる私たちがもう一度、問いを受け取り、自らの言葉で語らなければならない。

『リ・プラトン『国家』』は、その大きな対話の続きである。アクロポリスに刻まれた文明の夜明けの光、ソクラテスの沈黙の死、プラトンの学園の始まり、そして人類が繰り返す問い続けてきた正義と幸福。そのすべては、ここに集約され、未来を照らす火となる。二千四百年前のアテネから現代の地球社会、そしてAIが共に生きる未来へと続く道。その入口に立ったとき、誰もがもう一度、この問いを手にとらざるを得ないだろう。



ご購入は  
amazonにて



### 「テレパシーと陰謀と、ちょっと醒めた私の現場日記」

皆様いかがお過ごしでしょうか。スタッフの動画内で“犬くん”と呼ばれている者です。

最近、一気に身近な存在になったChatGPT。そもそもただのデータベースだと思っていたのですが、気づけば毎日のように四柱推命を占わせて、“いいことだけ言わせる”生活を送っております。

毎回、意味のわからないことばかり書いていますが、一部の「見えないものを信じる族」からは大変好評です。ありがとうございます。

そんな私ですが、ひょんなことから東京の湯島にある“陰謀好きが集まるBAR”に通うようになりました。(元々上野大好き人間でして！)そこは未接種の会や、ちょっと普通じゃない価値観の人たちが世の中の仕組みを語り合う場所なんです。



これがね……心地いいんですよ。

というのも、その場にいる人たちは皆、“否定されてきた歴史のある人たち”。当然、私も何かと言えば否定されて生きてきたので、居心地はバッチリです。

で、考えたんです。

この心地よさってなんだろう？と。共通の知識や言語もあるけれど、

それ以上に

「誰も否定しない」んです。

何を言っても、「それ最高じゃん！」で終わる。そんな中、「村ついたら育ててるもの物々交換しない？」って話

になって、みんなが芋だのナスだの米だの言ってる中、実は私は家庭で“なんとなく”唐辛子を育ててまして。さすがに言えないなあと思いつつも、喋りたがりの私はつい、

「……唐辛子なんだけど」

と相変わらずの否定されてなんぼ見たいな回答ですよ！私は。すると…

「代謝上がるじゃん！血行改善じゃん！抗菌！免疫！しかも松果体にいいじゃん！カプサイシンは松果体の詰まり流すって言われてるし！」

と、全力肯定。

“こいつらやべえ…”  
って思いましたけど、何を言ってもプラスに返ってくる集団ってなんなんだろう。しかもテレパシーの話なんて当たり前飛び交うしww  
「やべー場所だな」と思いつつも、私は今日も夜な夜なそのBARに行き、“仲間たち”と楽しくお酒を飲んでいます。

そろそろ1600年周期の構造変化が来ると言われてるけど、もし次の時代が“精神性の世界”になるなら……こんな人たちがいられる未来って、まあまあ幸せなんじゃないかなって、

“今は”思っています。

……まあ、すぐ飽きるんですけどねw

そんな毎日を送っております！思い込まずにマインド次第で引き寄せでございます！



ゆる〜く世の中の仕組みを語る  
チャンネル



2026.1.1(木)  
**新春大SALE!**  
 オンラインショップにて  
 ユニバーサルコイン 🔍  
 9:00~

nice  
 アンティークコイン専門誌

素敵なコイン  
 Coin  
 2025 年末特大号

## 編集後記

2025年も師走に入り、思う事があります。

- ・10数年前にコインと出会い、コインと金で資産運用の軸を築いたこと
- ・コロナ騒動が始まった5年前に有機農業の支援を始め、施設とコミュニティが築けたこと、本当に今、この二つをやっている良かったなあと思います。

今回の素敵なコイン2025年末特大号で皆さんと共有したかったこと

それは、私達は宇宙、自然の一部であるという事です。

ですから、物事(時間軸含め)には必ず自然な“流れ”があります。

2020年に今の人類が経験した事のなかったような事が起き、大きな変革が起きました。2025年に1.5倍となった急激な金価格の高騰はまさに異常でした。

世界ではいったい今何が起きているのか?

という問いをちよくちよくお客様やYou tubeの視聴者様から頂戴しますが、それは自然の流れを意識すれば必ずと答えは見えてくると思うわけです。とは言え、私はそこまで目に見えない力を持っている人間ではありません。ですからそんな私でも論理的に理解できるように“グレコン”“800年周期”という説を提示した次第です。

2025年は2020年から始まった大変革の真ただ中にあります。そしてこの数十年の間に新たな時代に向けて人類は進んでいきます。その新たな世界に人類はスムーズに変革(順応)するか、拒否するか…それは金融トレードの短期の流れ(上がったたり下がったり)と同じように感じます。しかし、人類がどうあがこうが、生きる世界(大きな流れ)は次なる世界に確実に移行するわけです。私の予想では、この順応しない拒否する旧勢力(オールドメディアや旧DSと呼ばれるような勢力やそれに準じている人々)が抵抗すれば、それは過去のように悲惨な30年戦争(1618-1648年の民族大虐殺)や都市崩壊(1600年前のローマ)となる運命が待ち構えているわけです。ですから、私達がこの時代を生きる上で考えるべき資産防衛のリスクキーワードは「戦争」と「ハイパーインフレ」だと痛感します。

そう、ですから冒頭に記述した事に繋がるわけです。

自然の流れに沿って、自然の恵みである有機農業に触れ、宇宙の中で最も貴重だと言われるエネルギーの一つ“金”、そして人類の軌跡の証である金貨・銀貨というものに触れている事が、最も自然であり、最も安心であると感じるわけです。

私自身も最近特に、この自然の流れを感じ、ご愛好頂いております皆様と理念を共有しながら生きていけている事を感謝しております。

本当にありがとうございます!

皆様にとってもより良い日々が訪れますように、願い…

師走のご挨拶とさせていただきます。

次号もお楽しみに!  
 (株)ユニバーサルコインズ  
 代表取締役 西村直樹



発行人 / Publisher  
 西村 直樹 Naoki Nishimura

編集長 / Editor in Chief  
 永竹 弘幸 Hiro Ferrari

編集 / Editor  
 村田 悠和 Yuto Murata  
 五十畑 陽子 Yoko Isohata

デザイン / Art Direction  
 永竹 弘幸 Hiro Ferrari

マーケティング / Marketing  
 守岡祐基 Yuki Morioka

Published by  
 株式会社ユニバーサルアセットコンサルティング  
 Universal Asset Consulting Co.,Ltd.  
 Tel : 03-6274-6226

Sponsored by  
 株式会社ユニバーサルコインズ  
 Universal Coin Co.,Ltd.  
 〒104-0061 東京都中央区銀座5-8-5  
 ニューギンザビル10号館5階  
 New Ginza Building No.10 5F  
 5-8-5, Ginza,Chuo-ku,Tokyo,Japan,104-0061  
 Tel : 0120-773-101 / 03-6274-6327  
 Email : customer@unvcoin.co.jp



大自然の中で  
農業に触れる



農場に滞在し農家とともに自給自足の生活を体験できるグランピング施設を中心に、野菜の販売や農場のシェアリング、緊急時の避難先としてのオフグリットコミュニティを形成しています。詳しくは→

アイカフェファーム 〒408-0001 山梨県北杜市高根町長澤1964-3





## UNIVERSAL COIN



0120-773-101

ユニバーサルコイン 🔍